

名取市における 東日本大震災の概要



はじめに

名取市では、平成23年11月に震災記録室を設置し、震災関連の文書記録類及び画像・動画並びに発行された図書類、その他震災に関連するあらゆる記録類の収集・整理を行い、名取市における東日本大震災に関する記録の作成・保存に取り組んでまいりました。

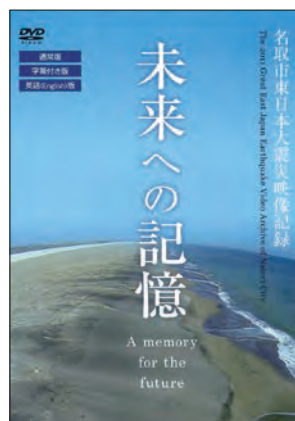
その成果として、震災被害概要の名取市ウェブサイトでの公開や名取市の震災記録誌の作成を初めとして、震災の教訓を生かした防災教育用DVDの制作、震災から1年間の写真記録誌の作成、震災映像記録DVDの制作、被災した市民の方々の震災体験集の作成、河北新報の名取市関連震災新聞記事集の作成、NHKが放送した閑上中学校の番組DVDの制作、語り部活動映像記録DVDの制作、国土地理院が撮影した震災翌日の名取市沿岸の航空写真集の作成、震災前後の名取市沿岸部の比較パネルの製作などの記録類の作成を行ってきました。

今回刊行いたしました当「概要版」は、これまで作成しました「震災記録誌」「震災写真誌」「震災体験集」から抜粋して取りまとめたものを冊子にし、市民の皆様へ配布して震災が風化することなく、記録と記憶にとどめていただくことを目的として作成したものです。ご一読いただき、今後の防災に生かしていただければ幸いです。

本書はページ数の都合上、震災被害の記録が主なものとなりましたが、今まで作成致しました震災記録類は、全て図書館で貸出や閲覧ができます。また、冊子やDVDにつきましては、公民館でも借りる事が可能です。さらに、今後名取市のウェブサイトでの公開を予定しておりますので、是非ともご覧ください。

なお、「名取市東日本大震災一年間の写真記録」は平成25年3月刊行、「東日本大震災名取市民の体験集」は平成26年3月刊行で、インタビューは平成25年5月から12月に行ったものです。

「東日本大震災名取市の記録」は平成26年10月刊行で、データは主に平成26年3月末のものです。



1. 地図 4P

- (1) 名取市行政区地図
- (2) 名取市沿岸部
- (3) 閑上地区沿岸部
- (4) 下増田地区
- (5) 避難所
- (6) 仮設住宅団地

2. 「東日本大震災名取市の記録」 10P

地震の状況

第1節 地震の概要

- 1. 地震の諸元
- 2. 地震の特徴

第2節 津波の概要

第3節 余震の状況

第4節 気象庁の措置

第5節 被害の概要

名取市の被害状況

第1節 地震の状況

- 1. 東北地方太平洋沖地震(本震)
- 2. 津波
- 3. 余震(名取市の震度5以上)
- 4. 地震発生から津波到達までの状況

第2節 被害の概要

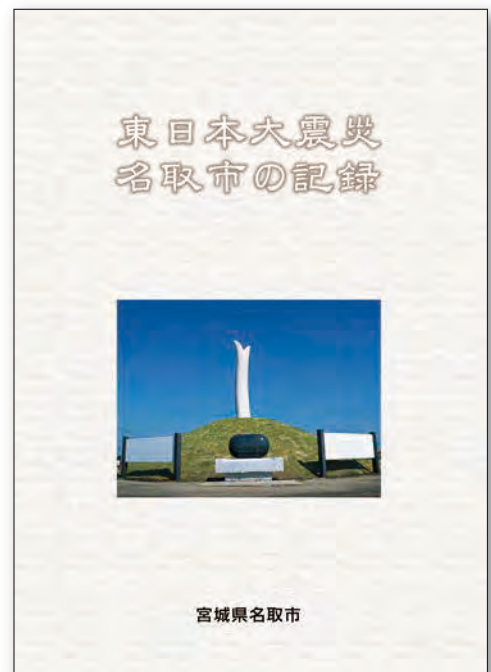
- 1. 概要
- 2. 地震の状況
- 3. 津波の状況

第3節 被害の内容

- 1. 人的被害
- 2. 避難者数の推移
- 3. 建物被害
- 4. ライフラインの被害
- 5. 交通の被害
- 6. 道路・橋梁の被害
- 7. 河川の被害
- 8. 崖崩れ・地すべり等
- 9. 産業の被害
- 10. 文化財の被害
- 11. 幼稚園・学校の被害
- 12. その他教育施設の被害
- 13. 公共施設の被害額
- 14. 公共施設の主な被害

第4節 火災の状況

- 1. 火災件数と面積
- 2. 原因



3. 「名取市東日本大震災一年間の写真記録」…………… 42P

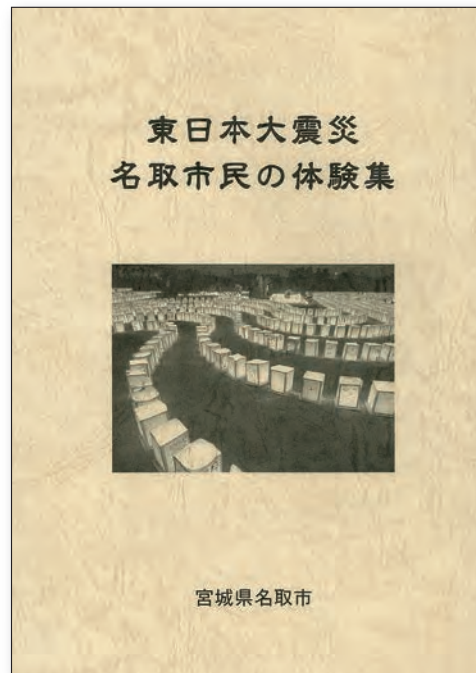
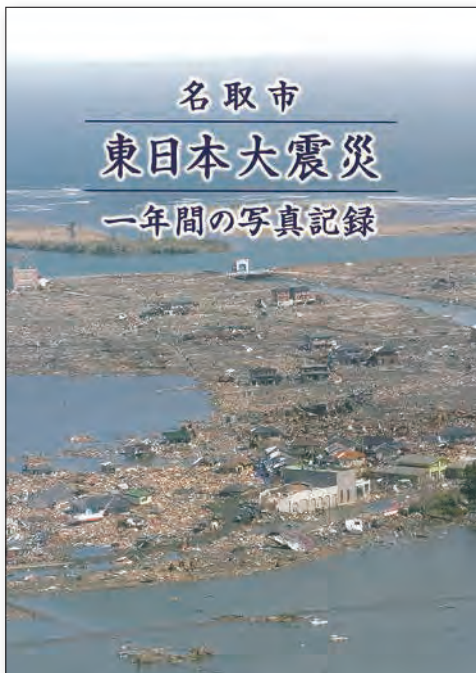
- (1) 地震動被害
- (2) 津波襲来
- (3) 津波被害
- (4) 火災

4. 写真追録 …………… 82P

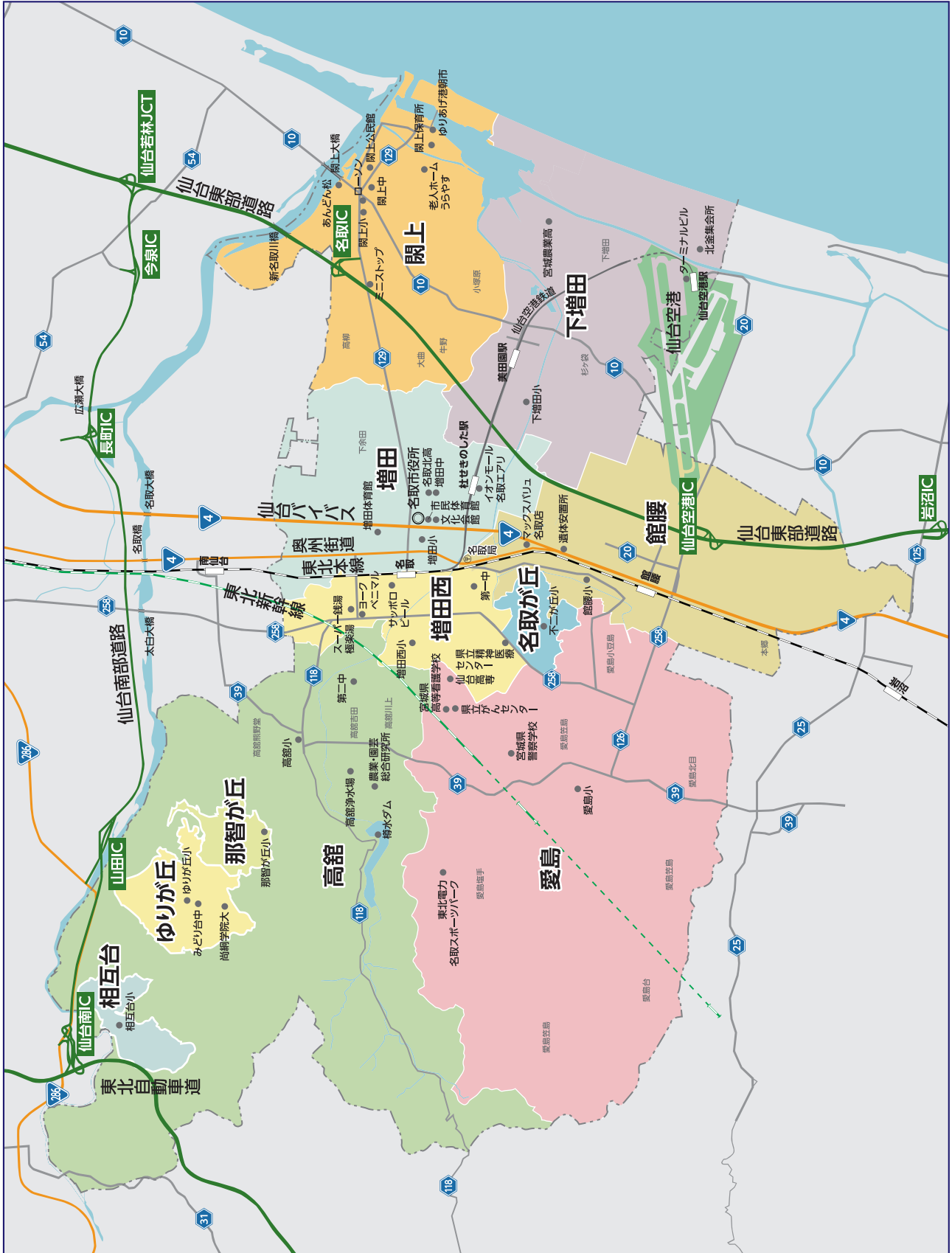
- (1) 津波被害
「東日本大震災名取市民の体験集」より2枚
「東日本大震災名取市の記録」より2枚
- (2) 道路啓開(「名取市東日本大震災一年間の写真記録」第5章より)
- (3) 災害ボランティアセンターの活動
- (4) 震災前後の比較写真(「東日本大震災名取市の記録」資料編より)
- (5) 慰霊(「名取市東日本大震災一年間の写真記録」第7章より)

5. 「東日本大震災名取市民の体験集」…………… 100p

- (1) 関上5丁目・20代・男性 (No.06, 2p)
- (2) 関上3丁目・60代・女性 (No.10, 3p)
- (3) 関上6丁目・40代・男性 (No.18, 3p)
- (4) 関上2丁目・60代・女性 (No.22, 2p)
- (5) 関上7丁目・50代・男性 (No.28, 2p)
- (6) 関上1丁目・70代・女性 (No.44, 2p)
- (7) 小塚原・70代・男性 (No.51, 2p)
- (8) 下増田北釜地区・70代・女性 (No.54, 2p)



名取市行政区地図



※地図について：本誌で使用している地図は全て東日本大震災発生当時のものです。

名取市沿岸部



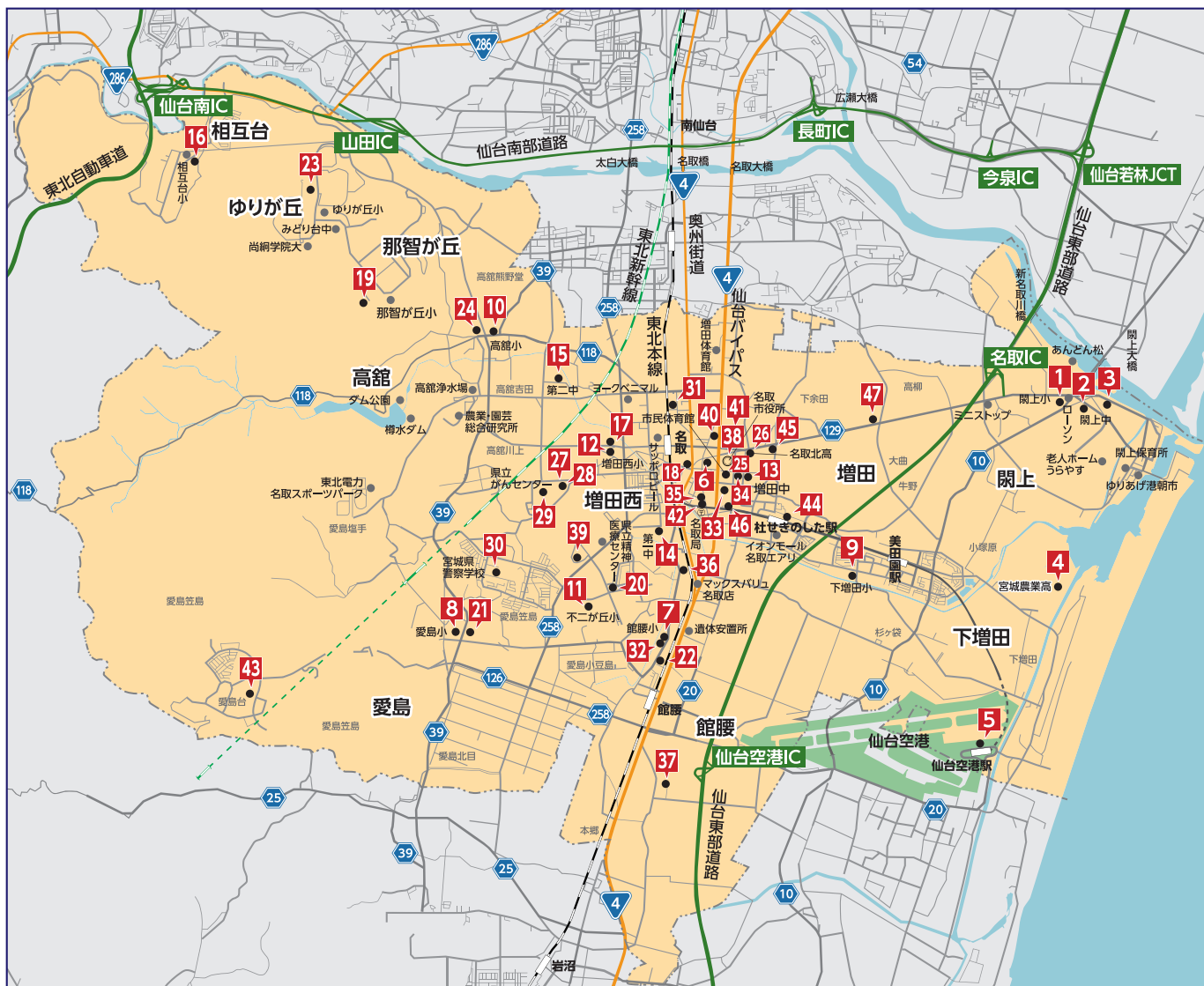
関上地区沿岸部



下増田地区



避難所



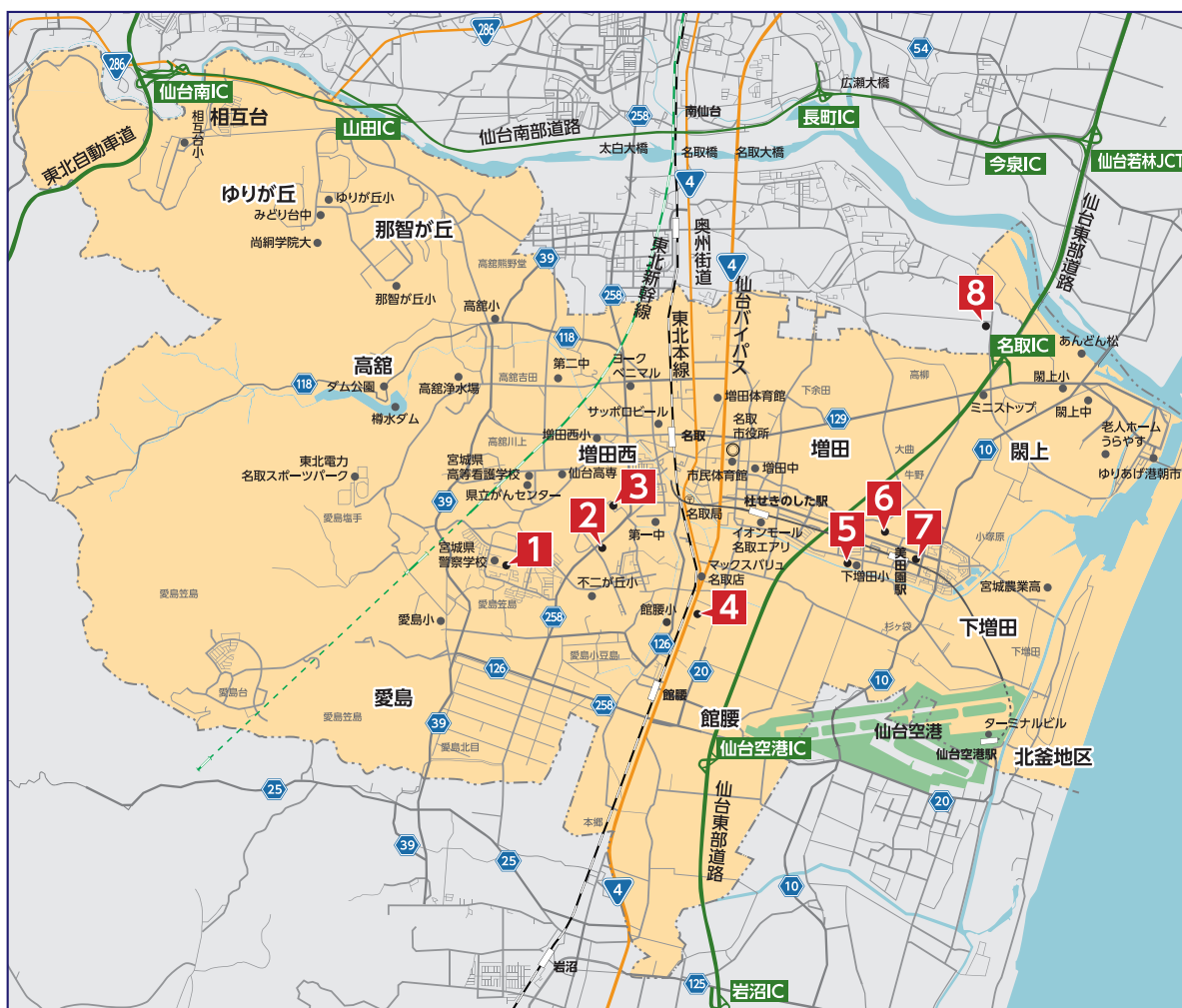
- | | | |
|---------------|----------------------|----------------------|
| 1 関上小学 | 16 相互台公民館 | 32 館腰児童センター |
| 2 関上中学校 | 17 増田西公民館 | 33 文化会館 |
| 3 関上公民館 | 18 増田公民館 | 34 保健センター |
| 4 宮城県農業高等学校 | 19 那智が丘公民館 | 35 みりの園 |
| 5 仙台空港ターミナルビル | 20 名取が丘公民館 | 36 飯野坂集会所 |
| 6 増田小学校 | 21 愛島公民館 | 37 本郷集会所 |
| 7 館腰小学校 | 22 館腰公民館 | 38 市役所前駐車場等 |
| 8 愛島小学校 | 23 ゆりが丘公民館 | 39 十三塚公園駐車場 |
| 9 下増田小学校 | 24 高館公民館 | 40 消防署倉庫 |
| 10 高館小学校 | 25 市民体育館 | 41 社会福祉協議会 |
| 11 不二が丘小学校 | 26 宮城県名取北高等学校 | 42 増田本町集会所 |
| 12 増田西小学校 | 27 仙台高等専門学校名取キャンパス | 43 愛島台二丁目集会所 |
| 13 増田中学校 | 28 仙台高等専門学校名取キャンパス学寮 | 44 りんくろタウンステーション同和警備 |
| 14 第一中学校 | 29 宮城県立がんセンター | 45 名取デイサービスセンターさふらの家 |
| 15 第二中学校 | 30 宮城県警察学校 | 46 ホテルルートイン名取 |
| | 31 県営増田六丁目集会所 | 47 大聖寺 |

プレハブ仮設住宅の所在地一覧

仮設住宅団地名(宮城県建設名称)	所在地	建設戸数	入居戸数	入居世帯	入居者数
箱塚桜団地(県立精神医療センターグラウンド)	箱塚一丁目12-13	102	101	102	270
箱塚屋敷団地(箱塚グラウンド)	手倉田字箱塚屋敷3-2	180	177	172	454
美田園第一団地(下増田前田地区)	美田園一丁目8-1	128	128	121	250
美田園第二団地(下増田飯塚地区)	美田園五丁目2-3	120	120	94	257
美田園第三団地(下増田小学校グラウンド)	美田園七丁目23-1	27	27	16	68
愛島東部団地(愛島東部第二区画整理地)	愛島笠島字西小泉68 38街区1画地	182	182	156	411
植松入生団地(NTTグラウンド)	植松入生274-1	150	150	119	303
グループホームゆりあげ	仙台市太白区四郎丸字昭和下	21	8	8	8
計		910	893	788	2021

※入居世帯と入居者数は入居当初の数

仮設住宅団地



1 愛島東部
2 箱塚桜

3 箱塚屋敷
4 植松入生

5 美田園第三
6 美田園第一

7 美田園第二
8 グループホームゆりあげ

地震の状況

第1節 ● 地震の概要

平成23年（2011年）3月11日14時46分に、三陸沖を震源とする国内観測史上最大のマグニチュード9.0の超巨大地震が発生した。

この地震により、宮城県栗原市で震度7、宮城県の名取市、石巻市、大崎市、仙台市など宮城県、福島県、茨城県、栃木県の4県37市町で震度6強を観測したほか、東北地方を中心に、北海道から九州地方にかけて震度6弱～1を観測した（図1、表1）。

また、この地震に伴い東北地方から関東地方北部の太平洋側を中心に、北海道から沖縄にかけての広い範囲で津波を観測した（表2、図2・3）。

本震の発生後も、東日本の太平洋岸を中心に強い余震が続いた（図7・8、表3）。

特に、平成23年4月7日に発生した宮城県沖を震源とするマグニチュード7.2の余震は、仙台市・栗原市で震度6強、名取市でも震度6弱を観測し、被害に追い打ちをかける結果となった。

余震を含めて、東北地方から関東地方沿岸までの、震度5強以上を観測した地域を中心に、広範囲で液状化現象が確認されており、特に関東地方沿岸の埋め立て地で顕著であった。

また、この一連の地震により、特に沿岸部の広範囲にわたり地盤沈下が起き、深刻な被害をもたらしている。

気象庁は3月11日14時46分発生地震を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名した。

また、この地震による災害については「東日本大震災」と呼ぶことが閣議決定された。

1. 地震の諸元

発生日時：平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分18.1秒

発生場所：北緯38度06.2分・東経142度51.6分 三陸沖（牡鹿半島の東南東約130km）

震源の深さ：24km

規模：モーメントマグニチュード9.0（国内観測史上最大）

津波：非常に高い津波が発生

震度：最大震度 震度7（宮城県栗原市）

名取市の震度 震度6強

発震機構：西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界の広い範囲で破壊が起きたことにより発生した地震。

名称：「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（3月11日気象庁命名）

（The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake）

震災の呼称：東日本大震災（平成23年4月1日持ち回り閣議で決定）

2. 地震の特徴

地震は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生し、断層の破壊に伴って巨大な3つの破壊が連続して発生した。そのうち始めの2つは岩手県から宮城県にかけて寄与し、3つ目の破壊が栃木県、茨城県から関東地方にかけて寄与した。そのため、地震が広範囲に及ぶとともに継続時間が長かったとされている。

震源域は、岩手県沖から茨城県沖までに及んでおり、すべりの大きな領域は、破壊開始点の東から北東側（震源よりも浅い部分）にあり、最大すべり量は約30m、主な断層の長さは約450km、幅は約150kmであり、破壊継続時間は約170秒間であった。また、この大きくすべった領域の周辺で余震が多発している。

この地震が、国内観測史上最大規模の巨大地震であり、巨大な津波を伴い、余震を含む地震動と津波により、史上最悪と言えるほどの被害をもたらした。

本震による揺れの特徴としては、広範囲で強い揺れに見舞われたこと、揺れの継続時間が長かったこと、長周期地震動が広範囲で長時間発生したこと、家屋被害をもたらすような周期の揺れは比較的小さかったことが挙げられる。

揺れの継続時間は、仙台市で約3分間という長時間であった。

本震後も大きな余震が頻発し、余震の回数は過去最高である。

図1：各地の震度（気象庁作成）

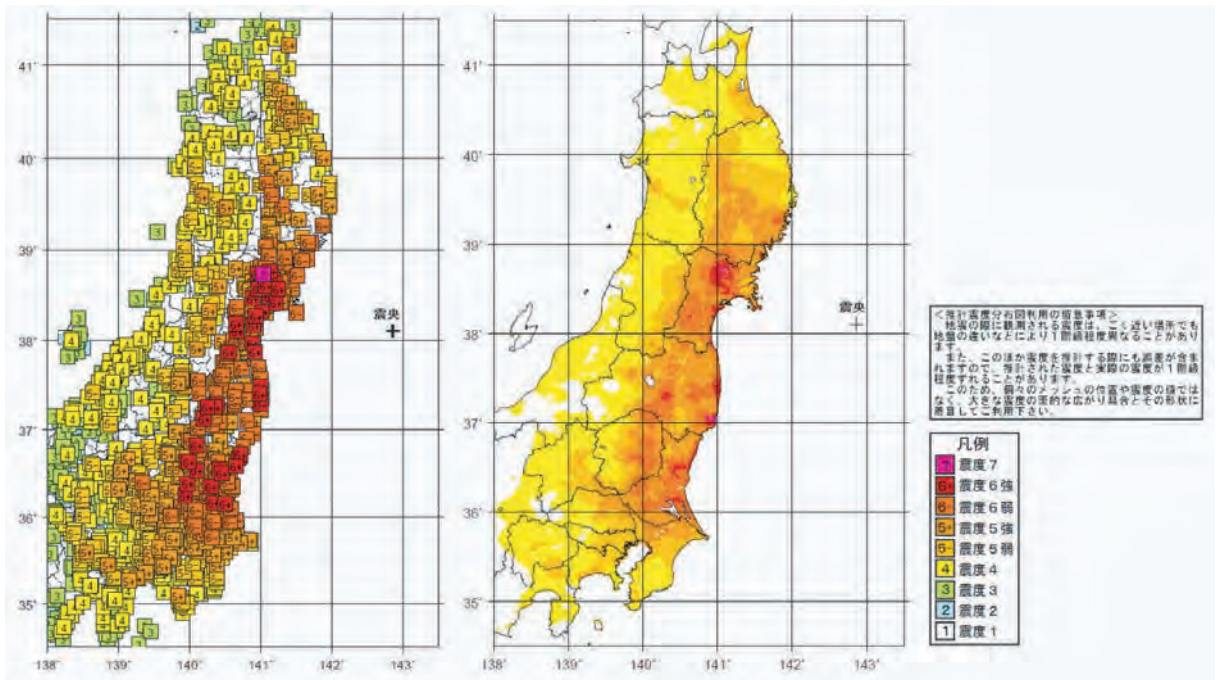


表1：各地の震度（本震、震度6弱以上）

（消防庁災害対策本部まとめ）

震度	県：市町村名
7	宮城県：栗原市
6強	宮城県：涌谷町、登米市、美里町、大崎市、 名取市 、蔵王町、川崎町、山元町 福島県：白河市、須賀川市、国見町、鏡石町、天栄村、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町 茨城県：日立市、高萩市、笠間市、常陸大宮市、那珂市、筑西市、鉾田市、小美玉市 栃木県：大田原市、宇都宮市、真岡市、市貝町、高根沢町
6弱	岩手県：大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町 宮城県：気仙沼市、南三陸町、白石市、角田市、岩沼市、大河原町、亶理町、松島町、利府町、大和町、大郷町、富谷町 福島県：福島市、郡山市、二本松市、桑折町、川俣町、西郷村、中島村、矢吹町、棚倉町、玉川村、浅川町、小野町、田村市、伊達市、本宮市、いわき市、相馬市、広野町、川内村、飯館村、南相馬市、猪苗代町 茨城県：水戸市、土浦市、石岡市、常総市、常陸太田市、北茨城市、取手市、つくば市、ひたちなか市、鹿嶋市、潮来市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、桜川市、行方市、つくばみらい市、茨城町、城里町、東海村、美浦村 栃木県：那須町、那須塩原市、芳賀町、那須烏山市、那珂川町 群馬県：桐生市 埼玉県：宮代町 千葉県：成田市、印西市

第2節 ● 津波の概要

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」により、東北地方の太平洋沿岸を始めとして北海道から沖縄にかけての太平洋沿岸で津波が観測された。

各地の津波観測施設では、福島県相馬で9.3m以上、宮城県石巻市鮎川で8.6m以上など、東日本の太平洋沿岸を中心に非常に高い津波を観測したほか、北海道から鹿児島県にかけての太平洋沿岸や小笠原諸島で1m以上の津波を観測した（表2、図2・3）。

更に、津波観測施設及びその周辺地域において現地調査し、津波の痕跡の位置等をもとに津波の高さの推定を行った結果によると、地点によっては10mを超える津波の痕跡が確認されている。

最大潮上高においては、岩手県宮古市で40.5mを記録するなど、過去の津波を上回る規模であった。

浸水域面積は、宮城県が圧倒的に大きく、これは仙台平野を中心とした低地において広範囲に浸水したことによる（図4・5・6）。

市町村単位では、宮城県と福島県北部に浸水面積・浸水率ともに大きい市区町村が集中し、浸水がもっとも著しい地域である（図4・5）。

宮城県の石巻市から山元町にかけては、一部を除き浸水面積が広く、この地域は三陸海岸ほど浸水高が大きくないが、仙台平野を中心とした標高の低い平地が石巻市から南相馬市にかけて存在するため、津波が一旦遡上すると広範囲に内陸まで進入しやすいことを示している。ただし、浸水率の高い東松島市と塩竈市の間にある松島町と利府町では、低地が少ないこともあり浸水面積・浸水率ともに低い値である。

今回の津波では、仙台湾以南の平野の標高5m以下の低地を中心として海岸線から最大約6km内陸まで津波が遡上（仙台市若林区）し、その後数週間は広域で水没する状況となり、地震に伴う地盤沈下等もあって、災害発生から2か月が経過しても冠水が続いている状態であった。

七北田川・名取川・阿武隈川では、低地の浸水よりもさらに遡上があり、名取川では河口から約8km上流の東北新幹線橋梁付近まで浸水域が達している。

今回の災害の犠牲者のほとんどは津波によるもので、多くの人命が失われ、大量の家屋、自動車、船舶等が流出し、東日本の太平洋沿岸各地で甚大な被害が発生した。

主な検潮所で観測した津波の観測値

・相馬	最大波	3月11日15時51分	9.3m以上※
・石巻市鮎川	最大波	3月11日15時26分	8.6m以上※
・宮古	最大波	3月11日15時26分	8.5m以上※
・大船渡	最大波	3月11日15時18分	8.0m以上※
・八戸	最大波	3月11日16時57分	4.2m以上※
・釜石	最大波	3月11日15時21分	4.2m以上※
・大洗	最大波	3月11日16時52分	4.0m
・えりも町庶野	最大波	3月11日15時44分	3.5m

※は、観測施設が津波により被害を受けたためデータを入手できない期間があり、後続の波でさらに高くなった可能性がある。（気象庁）

表2：日本国内の津波観測施設で観測された津波の観測値（気象庁発表のうち1m以上のものを抜粋）

都道府県	津波観測点名	第一波		最大の高さの波		所属
		始まり	押し+ 引き-	時刻	高さ	
		日時分		日時分		
北海道	えりも町庶野 *3	11日15:20	-0.1m	11日15:44	3.5m	気象庁
	根室市花咲	11日15:43	+286cm	11日15:57	286cm	気象庁
	浦河 *3	11日15:20	-0.2m	11日16:42	2.8m	気象庁
	十勝港 *1	11日15:27	-15cm	11日15:57	276cm以上	港湾局
	浜中町霧多布港	11日15:29	-7cm	11日22:19	257cm	港湾局
	苫小牧東港 *1	11日15:34	-29cm	11日16:17	246cm以上	港湾局
	函館 *1	11日16:15	+183cm	11日23:35	239cm	気象庁
	苫小牧西港	11日15:38	-22cm	11日17:31	225cm	港湾局
	釧路	11日15:35	+206cm	11日23:39	208cm	気象庁
	白老港 *7	11日15:36	-14cm	11日16:02	173cm以上	港湾局
青森県	八戸 *1 *3	11日15:21	-0.7m	11日16:57	4.2m以上	気象庁
	むつ市関根浜	11日15:30	-24cm	11日18:16	279cm	気象庁
岩手県	宮古 *1 *4 *5	11日15:01	-124cm	11日15:26	8.5m以上	気象庁
	大船渡 *1 *3 *5 *6	11日14:-	-1.0m	11日15:18	8.0m以上	気象庁
宮城県	釜石 *1 *5 *6	11日14:-	-119cm	11日15:21	420cm以上	海保庁
	石巻市鮎川 *1 *3 *5 *6	11日14:-	-	11日15:26	8.6m以上	気象庁
福島県	相馬 *1 *3 *5 *6	11日14:-	-1.2m	11日15:51	9.3m以上	気象庁
	いわき市小名浜 *5	11日15:08	+260cm	11日15:39	333cm	気象庁
茨城県	大洗 *3	11日15:17	+1.7m	11日16:52	4.0m	気象庁
千葉県	銚子 *3 *5	11日15:13	+2.3m	11日17:22	2.5m	気象庁
	館山市布良	11日15:24	+142cm	11日17:06	172cm	気象庁
東京都	父島二見	11日16:11	+108cm	11日16:46	182cm	気象庁
	東京晴海 *3	11日16:40	+0.8m	11日19:16	1.5m	気象庁
	八丈島八重根 *3	11日15:42	+1.4m	12日02:48	1.4m	気象庁
	八丈島神湊	11日15:35	+121cm	11日15:45	121cm	海保庁
神奈川県	横浜	11日16:10	+82cm	11日17:38	155cm	海保庁
	横須賀	11日15:54	+83cm	11日17:17	136cm	海保庁
静岡県	御前崎	11日16:03	+97cm	11日17:19	144cm	気象庁
	沼津市内浦	11日16:03	+134cm	11日16:16	134cm	気象庁
愛知県	田原市赤羽根	11日16:21	+107cm	11日17:31	155cm	気象庁
	名古屋	11日17:46	+68cm	11日19:36	105cm	気象庁
三重県	鳥羽	11日16:33	+46cm	11日19:14	182cm	気象庁
	尾鷲	11日16:17	+106cm	11日17:13	175cm	気象庁
和歌山県	串本町袋港	11日16:17	+66cm	12日01:32	151cm	気象庁
	那智勝浦町浦神	11日16:14	+92cm	11日18:06	124cm	気象庁
	白浜町堅田	11日16:34	+86cm	12日00:35	113cm	気象庁
	御坊市被井戸	11日16:36	+70cm	11日17:57	109cm	気象庁
徳島県	徳島由岐	11日16:37	+104cm	11日20:28	115cm	気象庁
高知県	須崎港	11日17:00	+146cm	11日20:59	278cm	港湾局
	土佐清水	11日16:56	+92cm	12日01:58	132cm	気象庁
宮崎県	宮崎港	11日17:13	+134cm	12日03:33	164cm	港湾局
	日南市油津	11日17:03	+103cm	12日00:12	123cm	気象庁
鹿児島県	種子島熊野	11日17:03	+80cm	12日03:23	152cm	気象庁
	奄美市小湊	11日17:31	+102cm	12日01:49	121cm	気象庁
	志布志港	11日17:19	+106cm	11日17:38	106cm	港湾局

津波の観測値は、観測された潮位のデータにバンドパスフィルターをかけ、その波形を用いて作成している。ただしデータが津波の立ち上がり直後に断ってしまった地点の高さについては、データの極値と推算潮位（実測の潮位で補正）の差で作成している

- は値が決定できないことを示す

*1 はデータを入力できない期間があったことを示す

*3 は巨大津波観測計により観測されたことを示す（観測精度は0.1m単位）

*4 は第一波を潮位計、最大波を巨大津波観測計により観測されたことを示す

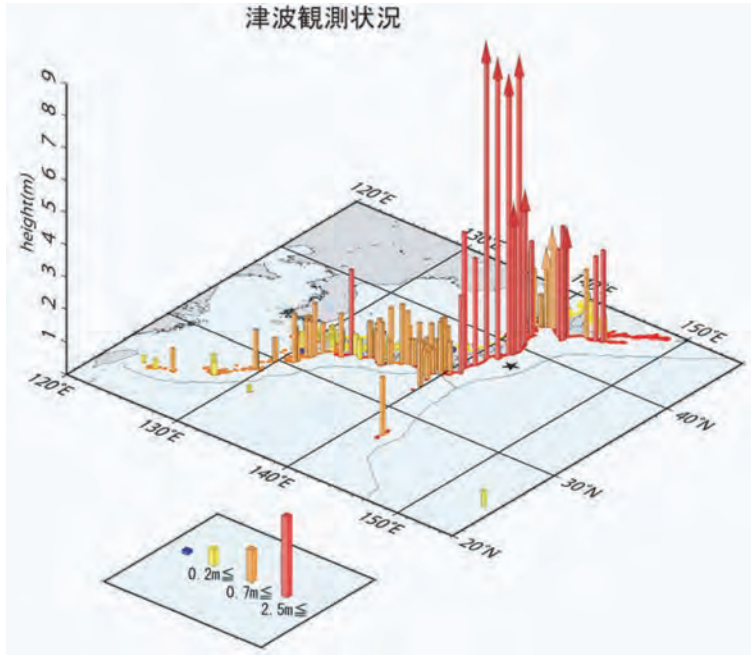
*5 は地盤沈下の影響で、第一波の読み取り値が不正確である可能性があることを示す

*6 は地震の揺れにより生じた潮位の変動等のため、潮位データからは津波の第一波の始まりの時刻が特定できなかったもの

一方、今回の地震の発生後、岩手県～千葉県の太平洋沿岸で1.2mから0.1m程度の沈降があったことが推定されており（国土地理院の地殻変動調査による）、これらの沿岸付近は波源域に含まれていたことが推測される

*7 はデータが頭打ちになっていることを示す

図2：津波観測施設で観測された津波の高さ（気象庁作成2011. 8. 12）



矢印は、津波観測施設が津波により被害を受けたためデータを入手できない期間があり、後続の波でさらに高くなった可能性があることを示す。観測施設には、内閣府、国土交通省港湾局、海上保安庁、国土地理院、愛知県、四日市港管理組合、兵庫県、宮崎県、日本コークス工業株式会社の検潮所を含む。

図3：青森県三沢市～福島県相馬市各地の津波高・浸水高（日本気象協会作成2011. 7. 11に加筆）

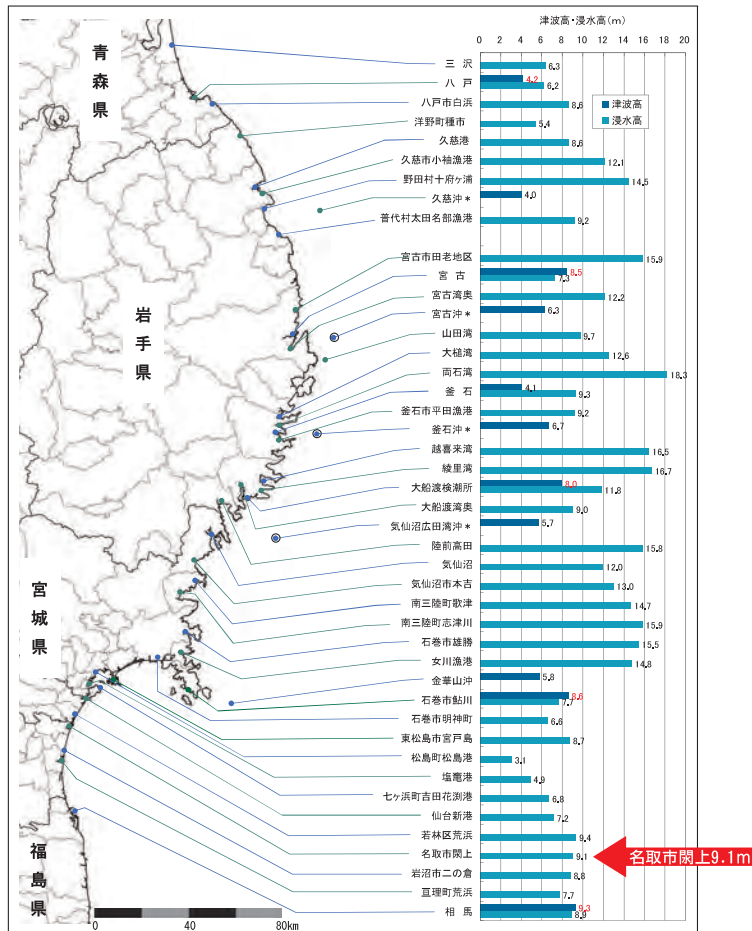


図 1.1 青森県三沢市～福島県相馬市各地の津波高・浸水高

赤字の数値はそれ以上の観測記録の途絶によりそれ以上の値の可能性を示す。

図4：東日本大震災の津波による市区町村別浸水面積（国土地理院作成2011. 3. 28）

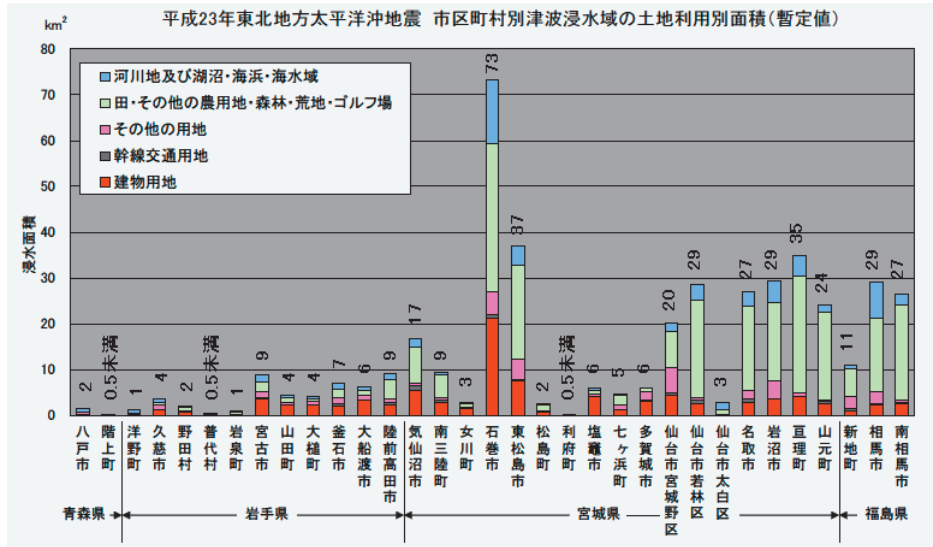


図5：県別浸水面積（国土地理院作成）

図6：県別の浸水面積

(日本気象協会作成 2011. 7. 11)



第3節 ● 余震の状況

余震は、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生している。

特に、福島県から茨城県の陸域の浅い場所では、M7.0の地震が発生し、M4～M5程度の地震（震度3～4）も多発するなど、活発な活動が見られる（図7・8、表3）。

3月11日14時46分に発生した本震に続いて、同日15時08分には岩手県沖でM7.4、八戸市・盛岡市で最大震度5弱や、同日15時15分に茨城県沖で発生したM7.6の最大余震では茨城県銚田市で最大震度6強を観測、4月7日23時32分に宮城県沖で発生したM7.2の余震では仙台市・栗原市で最大震度6強を観測、4月11日17時16分に福島県浜通りで発生したM7.0の余震では、いわき市・銚田市で最大震度6弱を観測、4月12日14時07分に福島県中通りで発生したM6.4の余震では、いわき市・北茨木市で最大震度6弱を観測するなど、本震直後から4月にかけて震度5以上の大きな余震が頻発している。

更に、5月以降も発生回数は減少してきているが、震度5以上の余震が発生している。

余震域で発生したM5.0以上の地震は、本震発生後の1年間では650回を超え、その後の1年間では84回、発生2年後から1年間では56回となっている。余震活動は時間の経過と共に低下してきているが、変化は以前に比べ緩やかになってきている。また、東北地方太平洋沖地震発生以前の2001年から2010年の地震の年平均回数（19回）に比べると、発生から2年後の1年間は約3倍であり依然活発な状態である。

余震活動を領域に分けてみると、沖合より沿岸部での活動が比較的高い。また、海溝軸付近では、2013年10月26日の福島県沖の地震（M7.1）のように、規模が大きく津波を伴う地震が発生している。

名取市において震度5以上又は宮城県に津波注意報・警報の発表のあった前震・余震

前震

発生日時……………平成23年3月9日11時45分

発生場所……………三陸沖

規模……………マグニチュード7.3

名取市の震度……………4

津波……………11時48分 津波注意報発表(青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県)
……………14時50分 津波注意報解除

宮城県の津波の高さの予測……………0.5m

宮城県に到達した津波の高さの最大……………48cm

余震

発生日時……………平成23年3月28日7時37分

発生場所……………宮城県沖

規模……………マグニチュード6.5

名取市の震度……………4

津波……………7時27分 津波注意報発表(宮城県)
……………9時05分 津波注意報解除

宮城県の津波の高さの予測……………0.5m

宮城県に到達した津波の高さの最大……………観測されず

発生日時……………平成23年4月7日23時32分

発生場所……………宮城県沖

規模……………マグニチュード7.2

名取市の震度……………6弱(名取市における最大余震)

津波……………23時34分 津波警報・注意報発表(警報：宮城県 注意報：青森県太平洋沿岸、岩手県、福島県、茨城県)

- 0時55分 津波警報・注意報解除
 宮城県津波の高さの予測……………1m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…観測されず
 ……………
- 発生日時……………平成23年4月11日17時16分
 発生場所……………福島県浜通り
 規模……………マグニチュード7.0
 名取市の震度……………4
 津波……………17時18分 津波警報・注意報発表(警報：茨城県 注意報：宮城県、福島県、千葉県九十九里・外房)
 ……………18時05分 津波警報・注意報解除
- 宮城県津波の高さの予測……………0.5m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…観測されず
 ……………
- 発生日時……………平成23年7月10日9時57分
 発生場所……………宮城県沖
 規模……………マグニチュード7.3
 名取市の震度……………3
 津波……………10時00分 津波注意報発表(岩手県、宮城県、福島県)
 ……………11時45分 津波注意報解除
- 宮城県津波の高さの予測……………0.5m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…12cm
 ……………
- 発生日時……………平成23年8月19日14時36分
 発生場所……………福島県沖
 規模……………マグニチュード6.5
 名取市の震度……………4
 津波……………14時38分 津波注意報発表(宮城県、福島県)
 ……………15時15分 津波注意報解除
- 宮城県津波の高さの予測……………0.5m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…観測されず
 ……………
- 発生日時……………平成24年8月30日4時05分
 発生場所……………宮城県沖
 規模……………マグニチュード5.6
 名取市の震度……………5弱
 津波……………なし
 ……………
- 発生日時……………平成24年12月7日17時18分
 発生場所……………三陸沖
 規模……………マグニチュード7.3
 名取市の震度……………4
 津波……………17時22分 津波警報・注意報発表(警報：宮城県 注意報：青森県太平洋沿岸、岩手県、福島県、茨城県)
 ……………19時20分 津波警報・注意報解除
- 宮城県津波の高さの予測……………1m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…98cm
 ……………

● 地震の状況

発生日時……………平成25年10月26日2時10分
 発生場所……………福島県沖 ※アウターライズ地震
 規模……………マグニチュード7.1
 名取市の震度……………3
 津波……………2時14分 津波注意報発表(福島県)
 2時50分 津波注意報発表(岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房)
 4時05分 津波注意報解除
 宮城県の津波の高さの予測……………1 m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…36cm

参考 (津波発生)

発生日時……………平成22年2月27日15時34分(日本時間)
 発生場所……………チリ中部沿岸
 規模……………モーメントマグニチュード8.8
 津波……………2月28日 9時33分 宮城県に大津波警報発表
 19時01分 宮城県津波警報に切り替え
 3月1日 1時07分 宮城県津波注意報に切り替え
 10時15分 津波注意報解除
 宮城県の津波の高さの予測……………(大津波)3m
 宮城県に到達した津波の高さの最大…106cm

図7：余震の発生状況 (気象庁作成)

震央分布図 (2011年3月11日12時00分～2012年1月10日12時00分、深さ90km以浅、M≥5.0)
 丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。
 M7.0以上の地震に吹き出しをつけている。

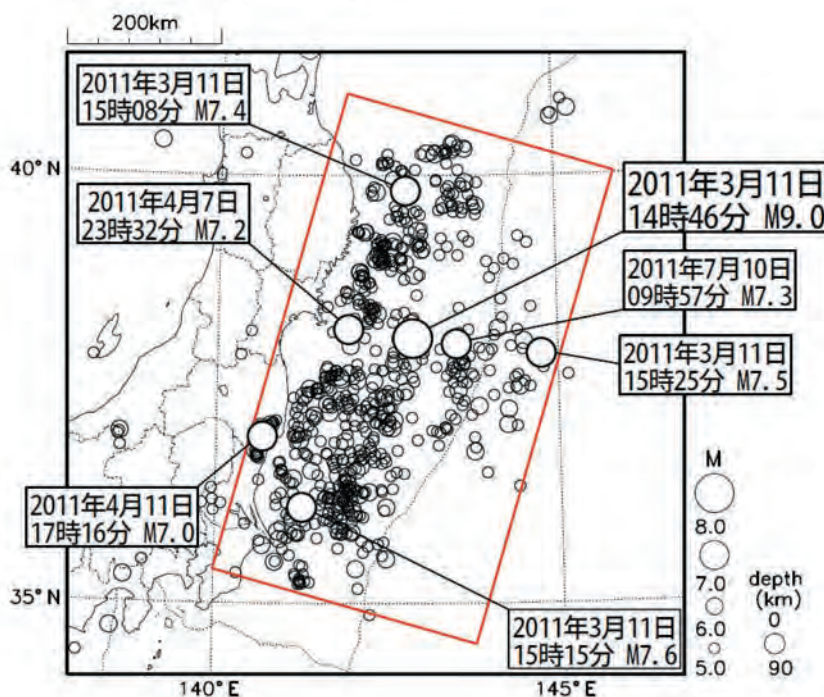


図8：東北地方太平洋沖地震
震度4以上の発生状況（気象庁作成）

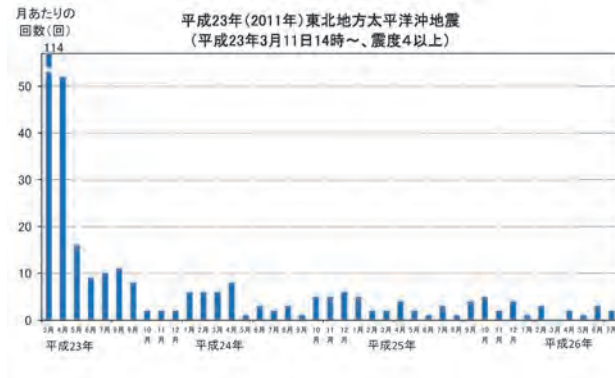
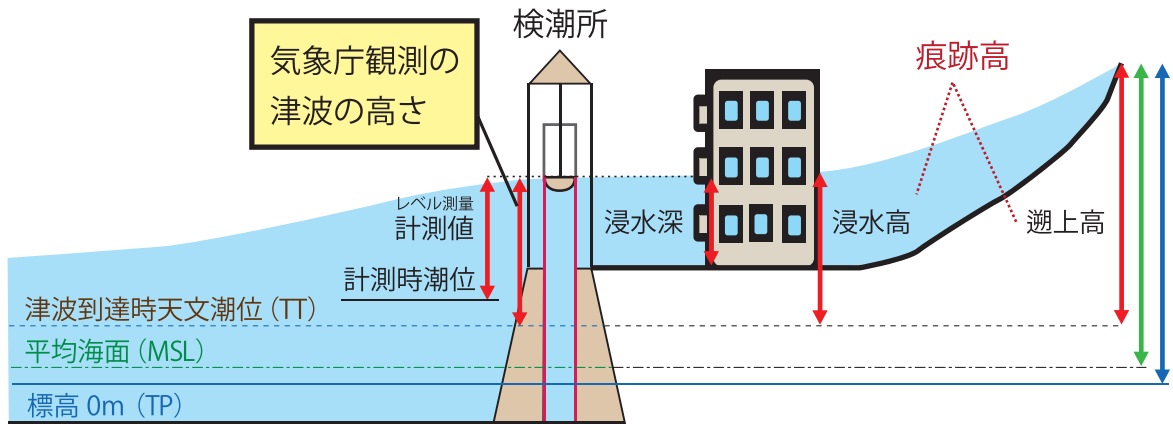


表3：震度4以上の最大震度別地震回数表
（本震含む、気象庁作成）

月別回数	期間	最大震度別回数					震度4以上を 観測した回数
		4	5強	5弱	6強	7	
平成23年	3/11 14:00 - 3/31 24:00	89	17	6	0	1	114
	4/1 00:00 - 4/30 24:00	41	8	0	2	1	52
	5/1 00:00 - 5/31 24:00	14	2	0	0	0	16
	6/1 00:00 - 6/30 24:00	7	2	0	0	0	9
	7/1 00:00 - 7/31 24:00	7	1	2	0	0	10
	8/1 00:00 - 8/31 24:00	9	2	0	0	0	11
	9/1 00:00 - 9/30 24:00	6	1	1	0	0	8
	10/1 00:00 - 10/31 24:00	2	0	0	0	0	2
	11/1 00:00 - 11/30 24:00	1	0	1	0	0	2
	12/1 00:00 - 12/31 24:00	2	0	0	0	0	2
平成24年	1/1 00:00 - 1/31 24:00	5	1	0	0	0	6
	2/1 00:00 - 2/28 24:00	5	1	0	0	0	6
	3/1 00:00 - 3/31 24:00	2	3	1	0	0	6
	4/1 00:00 - 4/30 24:00	6	2	0	0	0	8
	5/1 00:00 - 5/31 24:00	11	0	0	0	0	11
	6/1 00:00 - 6/30 24:00	3	0	0	0	0	3
	7/1 00:00 - 7/31 24:00	2	0	0	0	0	2
	8/1 00:00 - 8/31 24:00	2	0	1	0	0	3
	9/1 00:00 - 9/30 24:00	1	0	0	0	0	1
	10/1 00:00 - 10/31 24:00	4	1	0	0	0	5
	11/1 00:00 - 11/30 24:00	5	0	0	0	0	5
	12/1 00:00 - 12/31 24:00	5	1	0	0	0	6
平成25年	1/1 00:00 - 1/31 24:00	3	2	0	0	0	5
	2/1 00:00 - 2/28 24:00	2	0	0	0	0	2
	3/1 00:00 - 3/31 24:00	2	0	0	0	0	2
	4/1 00:00 - 4/30 24:00	2	0	0	0	0	2
	5/1 00:00 - 5/31 24:00	1	0	1	0	0	2
	6/1 00:00 - 6/30 24:00	1	0	0	0	0	1
	7/1 00:00 - 7/31 24:00	3	0	0	0	0	3
	8/1 00:00 - 8/31 24:00	0	0	1	0	0	1
	9/1 00:00 - 9/30 24:00	3	0	1	0	0	4
	10/1 00:00 - 10/31 24:00	5	0	0	0	0	5
	11/1 00:00 - 11/30 24:00	2	0	0	0	0	2
	12/1 00:00 - 12/31 24:00	3	1	0	0	0	4
平成26年	1/1 00:00 - 1/31 24:00	1	0	0	0	0	1
	2/1 00:00 - 2/28 24:00	3	0	0	0	0	3
	3/1 00:00 - 3/31 24:00	0	0	0	0	0	0
	4/1 00:00 - 4/30 24:00	2	0	0	0	0	2
	5/1 00:00 - 5/31 24:00	1	0	0	0	0	1
	6/1 00:00 - 6/30 24:00	3	0	0	0	0	3
	7/1 00:00 - 7/8 13:00	1	1	0	0	0	2
	統計	258	47	15	2	2	325

図9：津波の高さの定義



海面の高さには、気象庁で基準としている「平常潮位（津波到達時天文潮位:TT）」の他に「平均海面 (MSL)」と「標高0m (TP：東京湾平均海面)」があり、また、計測時の潮位を基準にする場合もあり、調査機関によりどれを基準としているか注意する必要がある。

第4節 ● 気象庁の措置

14：46（18秒） 地震発生

14：46（48秒） 緊急地震速報（警報）を発表 地震波検知から8.6秒後の発表

警報発表地域は、宮城県中部・北部、岩手県沿岸南部・内陸南部・沿岸北部、宮城県南部、福島県浜通り・中通り、他4か所

14：48 震度速報発表（最大震度6強）

14：49 震度速報発表（最大震度7）

● 地震の状況

- 14 : 49 津波警報・注意報発表
津波警報（大津波）の発表地域は、岩手県、宮城県、福島県
津波警報（津波）の発表地域は、北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸、茨城県、千葉県九十九里・外房、伊豆諸島
津波注意報の発表地域は、北海道太平洋沿岸東部・西部、青森県日本海沿岸千葉県内房、他
- 14 : 50 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報（情報第1号）発表
宮城県：到達時刻 15 : 00、津波の高さ 6 m
- 14 : 50 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報（情報第2号）発表
- 14 : 53 地震情報（震源・震度に関する情報、各地の震度に関する情報）発表
震度7 宮城県北部、震度6強 宮城県南部ほか、以下震度6弱、5強、5弱の地域を発表
- 14 : 56 津波予報（津波に関するその他の情報）発表
- 14 : 59 津波観測に関する情報（情報第3号）発表
- 15 : 01 津波観測に関する情報（情報第4号）発表
- 15 : 10 津波観測に関する情報（情報第5号）発表
- 15 : 14 津波警報・注意報発表（追加・グレードアップ）
津波警報（津波）から津波警報（大津波）への切り替え 3か所
津波注意報から津波警報（津波）への切り替え 5か所
津波注意報の発表 13か所
- 15 : 14 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報（情報第6号）発表
宮城県：津波の高さ10m以上に変更
- 15 : 15 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報（情報第7号）発表
- 15 : 17 津波観測に関する情報（情報第8号）発表
- 15 : 19 津波予報（津波に関するその他の情報）発表
- 15 : 25 津波観測に関する情報（情報第9号）発表
- 15 : 30 津波警報・注意報発表（追加・グレードアップ）
津波警報（津波）から津波警報（大津波）への切り替え 4か所
津波注意報から津波警報（津波）への切り替え 21か所
津波注意報の発表 9か所
- 15 : 31 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報（情報第10号）発表
- 15 : 31 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報（情報第11号）発表
- 15 : 32 津波観測に関する情報（情報第12号）発表
- 15 : 43 津波観測に関する情報（情報第13号）発表
- 15 : 49 津波観測に関する情報（情報第14号）発表
- 15 : 57 津波観測に関する情報（情報第15号）発表
- 16 : 00 地震情報（顕著な地震の震源要素更新のお知らせ）発表
暫定震源切り替え（38° 6.2′ N 142° 51.6′ E 深さ24km M8.4 三陸沖）
- 16 : 08 津波警報・注意報発表（追加・グレードアップ）
津波警報（津波）から津波警報（大津波）への切り替え 7か所
津波注意報から津波警報（津波）への切り替え 2か所
津波注意報の発表 8か所

第5節 ● 被害の概要

東日本大震災では、死者18,958人、行方不明者2,655人、負傷者6,219人、全壊家屋127,291棟など、千年に1度といわれるほどの甚大な被害が生じた（表4）。

地震動により、家屋の被害や東日本の各地でライフラインや輸送ルート等の社会基盤が大きな被害を受けた。

更に、今回の被害の主な原因である津波では、北海道から茨城県・千葉県にかけての沿岸部の被害が大きく、ことに震源域に近かった岩手県・宮城県・福島県の3県に被害が集中しており、ところによっては高さ10mを超える巨大な津波が押し寄せ、家屋の流失、火災の発生、車両の流失が大規模に生じ、沿岸部が壊滅的な被害を受けた。

名取市でも、沿岸部である閑上地区と下増田地区で、津波による被害が大きく、死者911人（名取市で発見されたご遺体数）、住家被害13,991件という、未曾有の被害をもたらした。

また、東北地方において津波の被害が甚大である一方、関東地方においては地盤の液状化により大きな被害が発生しており、千葉県、茨城県、埼玉県、神奈川県合わせて約1万9千戸の住宅について、液状化による被害の報告がされている。（内閣府調べH23.5.18現在）

更に、福島県白河市葉ノ木平地区の土砂崩れや須賀川市の藤沼貯水池（藤沼ダム）が決壊し、死者・行方不明者や家屋の流出などの被害が生じた。

この地震と津波により、東京電力福島第一原子力発電所で、大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故が起き、近隣の市町村では多数の住民が長期間の避難を余儀なくされている。

表4 被害の状況（消防庁災害対策本部まとめH26.3.7第149報より）

都道府県	人的被害						住家被害(棟)					非住家被害		火災(件)
	死者(人)	行方不明	負傷者(人)			全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他		
			重症	軽傷	程度不明									
北海道	1		3		3		4	7	329	545	17	452	4	
青森県	3	1	111	25	86		308	701	1,005			1,402	11	
岩手県	5,112	1,142	211	4	50	157	19,107	6,599	18,601	6	500	3,868	33	
宮城県	10,472	1,283	4,145	502	3,615	28	82,911	155,086	222,829	7,796	9,948	18,945	137	
秋田県			11	4	7			5					1	
山形県	3		45	10	35			14	1,248		8	124	2	
福島県	3,263	226	182	20	162		21,235	73,388	167,239	1,061	338	1,117	28,731	38
茨城県	65	1	712	34	678		2,628	24,327	185,877	1,799	779	1,698	18,255	31
栃木県	4		133	7	126		261	2,118	73,326		508	8,541		
群馬県	1		40	14	26			7	17,679				2	
埼玉県	1		104	10	94		24	199	16,617				12	
千葉県	22	2	256	29	227		801	10,121	54,937	157	731	12	827	18
東京都	7		117	20	97		16	205	6,234			363	739	35
神奈川県	4		137	17	120			41	459			13	6	
新潟県			3		3			17			4	5		
山梨県			2		2			4			1	1		
長野県			1		1									
静岡県			3	1	2			13		5				
三重県			1		1				2					
大阪府			1		1						3			
徳島県									2	9				
高知県			1		1				2	8				
合計	18,958	2,655	6,219	697	5,337	185	127,291	272,810	766,097	3,352	10,217	14,179	81,903	330

※東日本大震災の被害状況まとめの主なものとしては、他に警察庁緊急災害警備本部のものがあるが、消防庁のものとは数値は一致していない。

名取市の被害状況

第1節 ● 地震の状況

1. 東北地方太平洋沖地震（本震）

発生日時：平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分
発生場所：三陸沖（牡鹿半島の東南東約130km）、深さ24km
規模：モーメントマグニチュード9.0
名取市の震度：6強（揺れは約3分間継続）

2. 津波

以下は全て名取市のもの。

到達時刻：15時52分頃（本震発生後1時間6分後）

閑上港に大きな津波が到達、潮位計が破壊され、その後観測不能となる。

最大浸水高：参考値9.09m（閑上漁港付近の建造物の漂流物の計測による）

最大浸水距離：地上 約5.5km

河川 名取川約8km、増田川約7.4km

3. 余震（名取市の震度5以上）

発生日時：平成23年4月7日23時32分

発生場所：宮城県沖

規模：マグニチュード7.2

名取市の震度：6弱

津波：無し。

発生日時：平成24年8月30日4時5分

発生場所：宮城県沖

規模：マグニチュード5.6

名取市の震度：5弱

津波：無し。

4. 地震発生から津波到達までの状況

14：46 地震発生

緊急地震速報（警報）を発表（気象庁：発震約30秒後）

名取市災害対策本部設置、名取市消防本部第三次非常配備

14：49 津波警報・注意報発表（気象庁）：宮城県に大津波警報

閑上地区と下増田地区の全域に避難指示を決定（名取市災害対策本部）

消防署と消防団による広報・避難誘導開始

14：50 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報発表（情報第1号）

宮城県沿岸部の予想される到達時刻15：00、津波の高さ6m

14：57 防災行政無線による避難指示の放送開始（閑上・下増田の全地区）

（防災行政無線は、不具合により放送されなかったことが後日判明）

15：14 津波警報・注意報発表（追加・グレードアップ）

津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報発表（情報第6号）

宮城県沿岸部の予想される津波の高さ10m以上に変更

15：18 第1回名取市災害対策本部会議開催

15：52 大津波が関上港に到達

第2節 ● 被害の概要

1. 概要

今回の震災で名取市では、関連死を含めて964人（平成26年3月31日現在）という多くの市民の方が犠牲になられ、最大で11,000人を超える方々が避難を余儀なくされ、更に、半壊以上の建物5,000棟以上（非住家含む）という甚大な被害を受けた。

おりしも、この日は市内の中学校全5校の卒業式当日であった（式は午前中で終了）。

地震直後に市内全域が停電となり、それに伴い電話も全域が不通となった。ガスや上水道の被害も広範囲に及び、市内のライフラインは麻痺状態となった。

電気は約4日後と比較的早く復旧したものの、市内全域（津波被害地域を除く）のライフラインが正常に戻るまでには1か月近くを要している。

今回の震災の特徴としては、揺れによる被害がその地震規模の割には比較的小さかったのに対して、津波による被害が甚大であったことが挙げられる。

死者・行方不明者は、ほとんど津波の被害（関連死除く）であり、沿岸部では家屋の全壊が多数を占め、関上では海から1km以内の木造住宅は、ほぼ全て流失している。

また、火災も発生するなど津波によって名取市の沿岸部は、壊滅的な被害を受けた。

更に、約1か月後の4月7日に発生した震度6弱の大きな余震によって、いっそう被害が拡大した。

2. 地震の状況

地震動による被害としては、広い範囲で地盤沈下や陥没等があり、特に沿岸部の地盤沈下が著しく、内陸部でも道路や歩道の陥没や橋梁の段差などが多数発生し、更に沿岸部では液状化現象もみられた。

家屋も不等沈下や屋根の損壊や瓦の崩落、壁の破損、塀の倒壊等その被害は市内全域に及んでいる。

3. 津波の状況

名取市の津波については、調査方法が痕跡の実測から写真による判定などまちまちではあるが、複数の調査団により調査が行われている。

津波の高さ（浸水深・浸水高・遡上高）については、関上の日和山（標高6.3m、海岸から約800m）で、丘の頂上から2.10m上まで浸水した痕跡が残っていた。それから関上漁港付近の建造物2階窓枠の漂流物で、浸水高は9.09mであったとの調査報告がある（注1）。

また、関上の海岸砂丘の背後でTP上10.6m（浸水深で9.6m）、海岸から0.5～2.5kmの範囲では、TP上3～4m（浸水深で2～3m）、東部道路付近では地盤高2.7mに対して浸水深は約20cmであったと報告されている（注2）。

下増田地区でも、仙台空港前面海岸で浸水高12.3m、空港ターミナルビル東壁面で浸水高5.7mの報告がある（注3）。

更に、津波痕跡調査結果もある（表5）。

津波は、地上で海岸から最大約5.5kmまで侵入している。津波のほとんどは一旦仙台東部道

● 名取市の被害状況

路（高速道路、盛り土構造）で堰き止められたが、一般道路と交差する開口部分から進入して、道路の西側まで達した。

河川では、更に遡上が大きく、名取市の北部を流れ、閑上港脇にそそぐ名取川では、国土交通省の水位観測では、河口から約7kmまで津波に伴う水位の変動が見られており、河口から約8kmの東北新幹線の高架付近まで浸水域が達しているとの報告もある（注4）。

更に、市域を横断して流れる増田川では、河口の広浦から最大遡上地点まで約7.4kmであり、約7.3km地点の増田西大橋まで軽自動車が流されてきている（注5）。

名取市の浸水面積は、約27km²で、市域における割合は、約28%であった（表6）。

名取市は、市域の約3分の2が平野の平坦部であり、津波による大きな被害を受けた閑上・下増田地区も2～3m程度の標高しかなく、付近には丘陵地はおろか、閑上の日和山以外小高い丘程度のものもない地形である（図10）。

更に沿岸の3階建以上の津波に耐えられる鉄筋コンクリート造りの建造物で、なおかつ住民が避難可能な建物は、高校や小・中学校の校舎、仙台空港ターミナルビルなどの4～5か所しかない状況であった。

こうした、沿岸部の地形や環境と巨大な津波により、大きな被害が生じたと考えられる。

目撃証言によると、名取市の津波は引き波が強くなかったようで、内陸に侵入した多くの海水はその場に留まり、徐々に浸透・排水されたため、多くのがれきが流されずに水田内にそのまま残され、また農地が海水に浸ったことで、塩害により農作物が育てられないという地震動や津波による直接の被害に加えて二重の被害を受けている。

小塚原地区などの水田の一部は、発災後2か月経過しても水が引かなかった状況であった。

更に、海岸の防潮林（松林）については、津波による流出と塩害によりそのほとんどが失われてしまったが、震災前の状態に戻すまでには数十年という膨大な時間が必要となる。

注1：「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ第一期調査団土木学会海洋開発委員会早稲田大学隊宮城県・福島県津波被害調査報告（速報）」2011年4月7日

注2：「東日本大震災による津波浸水域における学術調査報告書」東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター&ユネスコ・政府間海洋学委員会国際津波調査団。TP＝標高0m

注3：「東北地方の港湾における被災状況について（現地調査速報）」港湾空港技術研究所・国土交通省

注4：「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震津波の概要（第3報）」日本気象協会

注5：「土木学会水工学委員会東日本大震災調査団報告書」第1章第1グループ宮城県増田川、田中仁

※津波の高さについては、31ページの図9を参照のこと。

表5：津波の浸水深（津波痕跡調査）

場 所	浸水深（地盤面から計測）	備 考
名取市サイクルスポーツセンター付近	4.79m	
閑上漁港付近	6.95m、8.50m	破壊跡から推定
閑上五丁目付近	6.03m	
閑上六丁目付近	4.70m	
斎場付近	3.80m	
閑上中学校付近	1.87m	
閑上小学校付近	1.31m	
県道塩釜巨理線の東側付近	1.84m、2.19m	小塚原
名取IC付近	1.20m	
宮城県農業高等学校付近	3.40m	
北釜地区付近	3.69m	
下増田小学校付近	0.50m	

※平成23年4月27日～5月2日調査「第8回名取市新たな未来会議資料」より

表6：名取市における津波浸水範囲の土地利用面積（国土地理院データより作成）

	浸水面積（km ² ）	浸水面積構成率（%）	名取市面積（km ² ）	浸水率（%）
田	15	56	30	50
その他の農用地	2	7	7	29
森林	1	4	29	3
荒地	0.5未満	2	2	25
建物用地	3	11	14	21
幹線交通用地	1	4	2	50
その他の用地	2	7	7	29
河川地及び湖沼	2	7	4	50
海浜	1	4	1	100
海水域	0.5未満	2	0.5未満	100
ゴルフ場	0	0	2	0
全体	27	104	98	28

※各項目と合計の値は、それぞれ1km²の単位で四捨五入しており、各項目の値の和と合計値が一致しない場合がある。

図10：標高5m等高線地図（埼玉大学谷謙二研究室作成）



図11：家屋被害状況〔閑上地区（上）・下増田地区（下）〕（第1回名取市新たな未来会議資料）

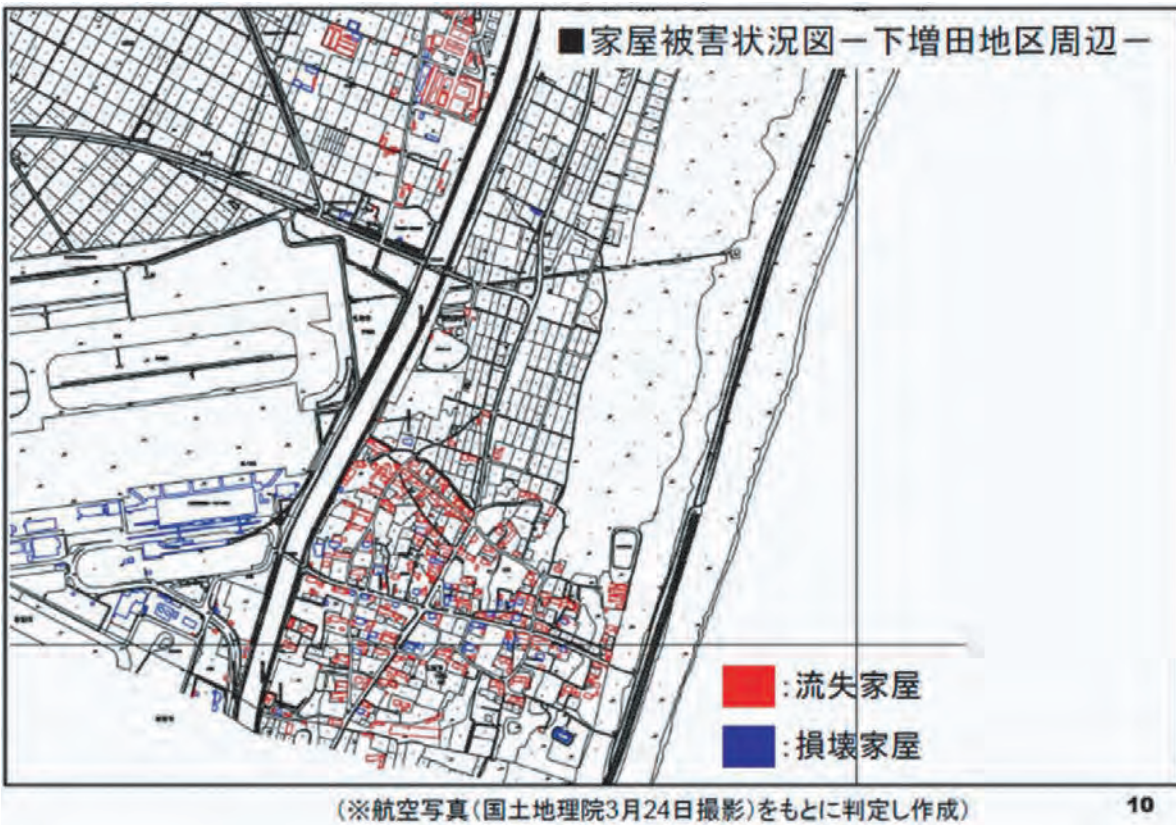
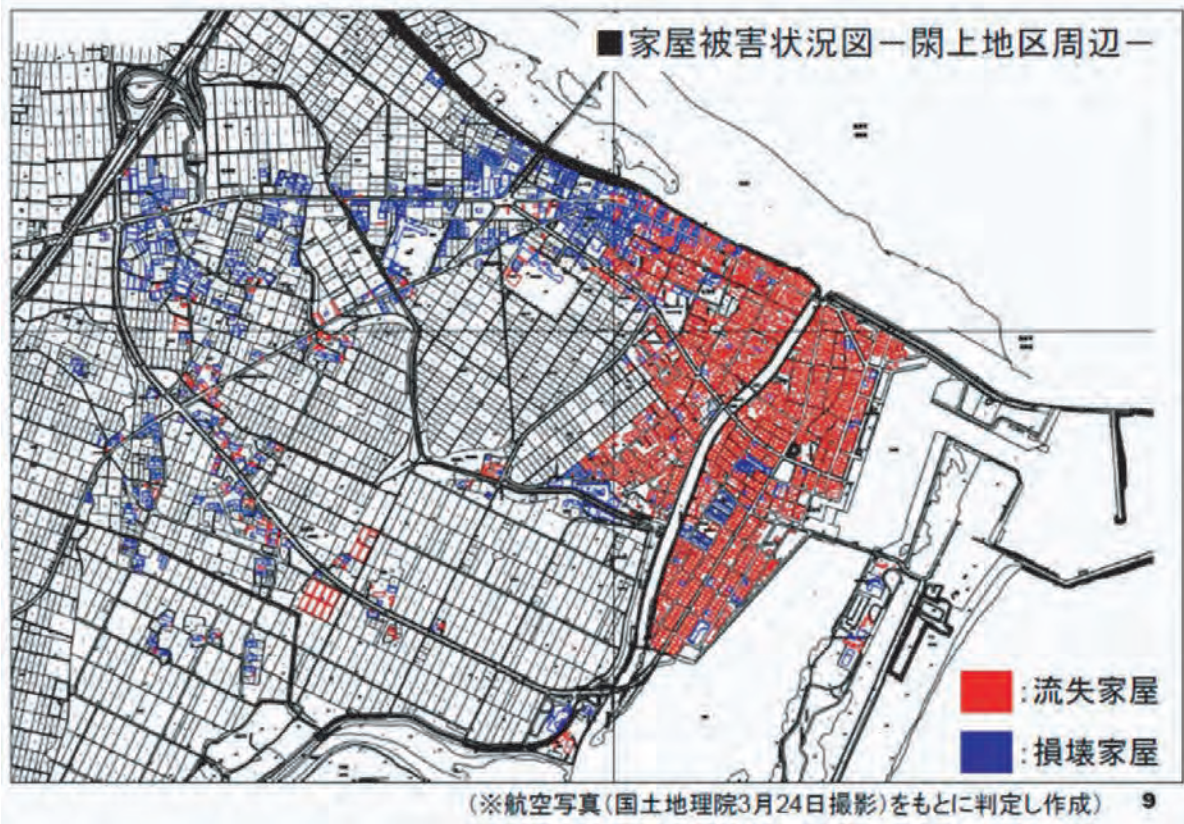


図12：津波浸水地域と被害ランク
 (地理地殻活動研究センター「東日本大震災における津波浸水域の地理的特徴」より)



図-9 写真判読で求めた津波被害分類(3ランク) 關上地区・仙台空港周辺

図13：津波浸水地域 (日本地理学会作成)

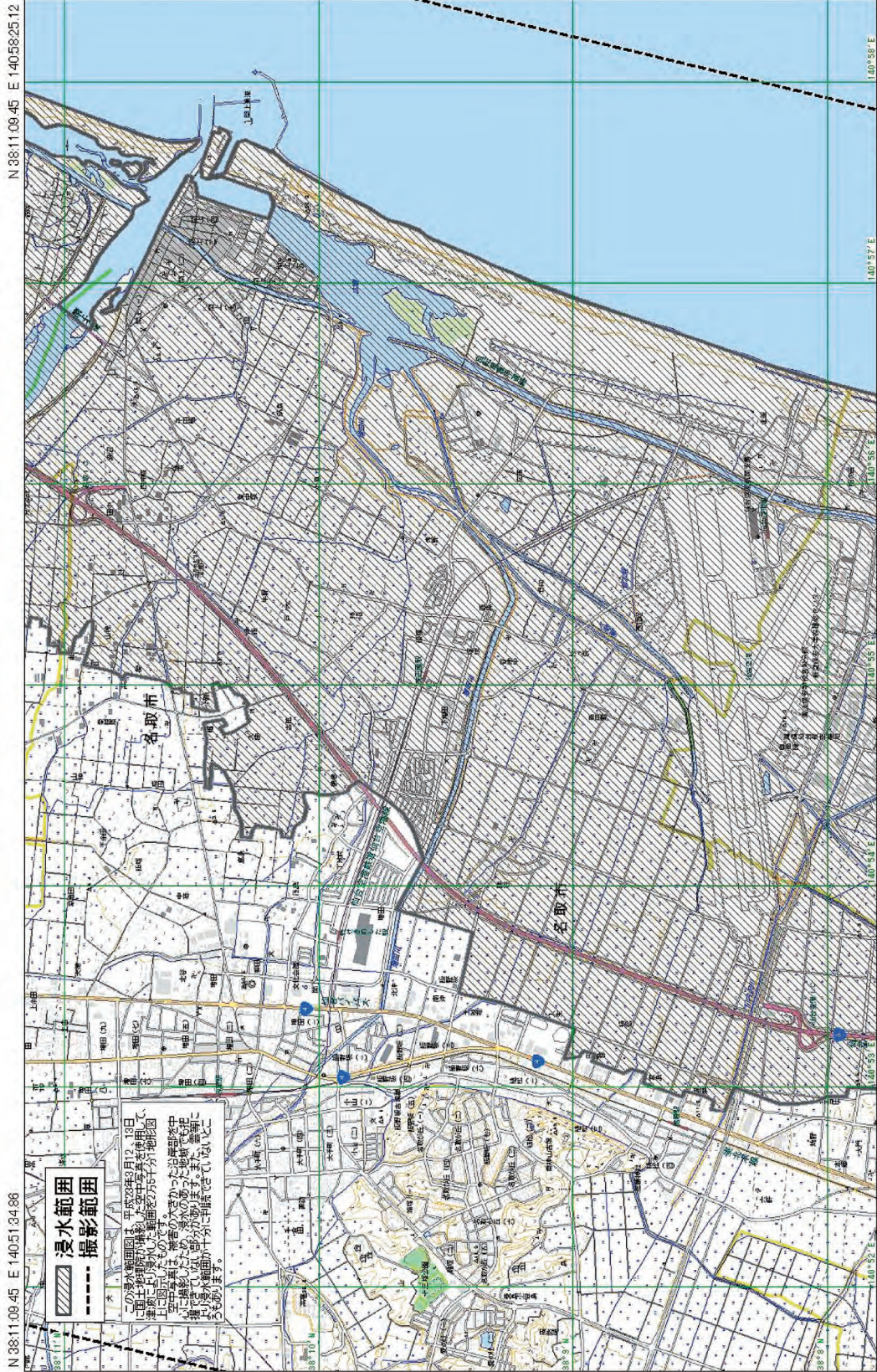


日本地理学会災害対応本部津波被災マップ作成チーム 2011
 2011年3月11日東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ2011年完成版
http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html, 2012年3月24日閲覧

図 14：津波浸水範囲概況図

浸水範囲概況図 No.119

N 38:11:09.45 E 140:58:25.12



N 38:11:09.45 E 140:51:34.86

N 38:07:48.22 E 140:51:34.86

1km

N 38:07:48.22 E 140:58:25.12

平成23年5月31日 第2版



国土地理院

第3節 ● 被害の内容

1. 人的被害

○市民の被害（平成26年3月31日現在）

死 者			関連死
923名	ご遺体が発見された方	行方不明者の中で死亡届出のあった方	
		884名	39名

※「死者」は、市外で亡くなられた名取市民を含む。

※「関連死」とは、避難生活での体調悪化や過労などの間接的な原因でお亡くなりになられた方。

負 傷 者		
208名	重傷者	軽症者
	14名	194名

○地区別の死者数（平成26年3月31日現在）※行方不明者は除く。

住 所	死 者				合 計
	市内での死者		市外での死者		
	男	女	男	女	
閑上庚申塚	1	1			2
閑上昭和	1	2			3
閑上新町頭				1	1
閑上新鶴塚	1	1			2
閑上一丁目	18	31			49
閑上二丁目	96	114		2	212
閑上三丁目	17	28			45
閑上四丁目	47	44		1	92
閑上五丁目	30	35	1	1	67
閑上六丁目	69	72	2	1	144
閑上七丁目	38	50	2	2	92
町区計	318	378	5	8	709
小塚原小原	1	1			2
小塚原蟹喰		1			1
小塚原上中		1			1
小塚原壇場		3			3
小塚原辻野		1			1
小塚原寺田		1			1
小塚原遠東	4	21		1	26
小塚原西中塚		1			1
小塚原田中		1			1
小塚原東遠泉	1	1			2
小塚原東中塚	3	1			4
高柳			1		1
小塚原・高柳計	9	33	1	1	44
閑上地区計	327	411	6	9	753
下増田女ヶ池	1			1	2
下増田北原東	7	9			16
下増田熊野		1			1
下増田台林	1		1		2

● 名取市の被害状況

住 所	死 者				合 計
	市内での死者		市外での死者		
	男	女	男	女	
下増田大橋本			1		1
下増田西経塚	1	2			3
下増田広浦	1	3			4
下増田前田	1	1			2
下増田南原	2				2
下増田屋敷	13	15	10	7	45
杉ヶ袋大野		1	1		2
杉ヶ袋杉北		1			1
杉ヶ袋前沖	2	2			4
杉ヶ袋尻田村		1			1
下増田地区計	29	36	13	8	86
増田	2	1	3		6
田高		1			1
飯野坂	1	1	2	1	5
植松	1	1	1		3
大手町	4		1		5
小山	1				1
上余田	1	2			3
下余田		2			2
手倉田	1				1
名取が丘	3	3	1	1	8
愛島北目		1			1
杜せきのした	2				2
みどり台				1	1
那智が丘			1		1
愛島塩手			1		1
愛島台			1		1
高館吉田				1	1
相互台			1		1
箱塚			1		1
その他の市内計	16	12	13	4	45
合計	372	459	32	21	884

※「死者」は、名取市内・市外で発見された名取市民の数。

名取市調べ

○行方不明者（平成26年3月31日現在）

行方不明者数	40
--------	----

※うち39名が市に死亡届を提出している。

名取市調べ

○市内で発見されたご遺体数（参考）

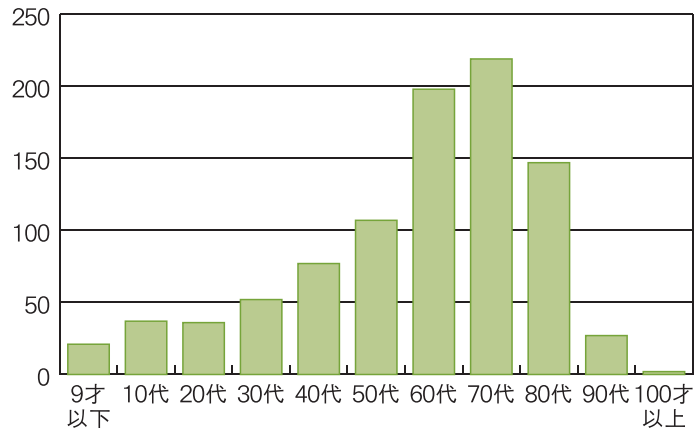
ご遺体数	911	内 訳		
		名取市民	名取市民以外	身元不明
		831	78	2

名取市調べ

○年齢別死者数（平成26年3月31日現在）※行方不明者の中で死亡届提出のあった方も含む。

年 齢	死者数(人)
9才以下	21
10代	37
20代	36
30代	52
40代	77
50代	107
60代	198
70代	219
80代	147
90代	27
100才以上	2
合計	923

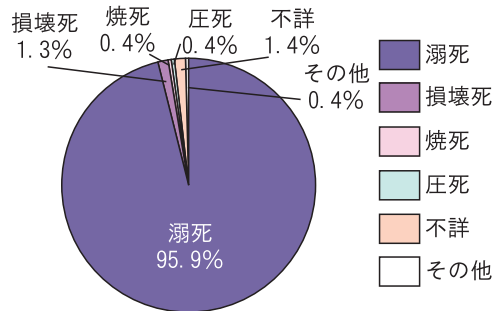
名取市調べ



○死亡原因（参考）

死亡原因	%
溺死	95.9
損壊死	1.3
焼死	0.4
圧死	0.4
不詳	1.4
その他	0.4

震災記録室調べ



○被害甚大地区における死者の割合（参考）（平成26年3月31日現在）※行方不明者は除く。

地 区 名	地区人口(人)	死者数(人)	人口に占める死者の割合(%)
閑上町区	5,686	709	12.5
閑上小塚原地区	461	43	9.3
下増田北釜地区	396	47	11.9
名取市全体	73,229	884	1.2

※人口は平成23年2月末現在

震災記録室調べ

○児童・生徒の人的被害

	幼稚園児	小学生	中学生	高校生	支援学校生
死 者	7	6	17	5	1

震災記録室調べ

○市職員の殉職者

市 職 員	
死者数	4名（うち消防職員 3名）

名取市調べ

○消防団員の殉職者

消 防 団 員	
死者数	16名（閑上分団11名、下増田分団4名、増田分団1名）

名取市消防本部調べ

● 名取市の被害状況

○ 震災孤児・遺児数 (平成23年3月11日時点)

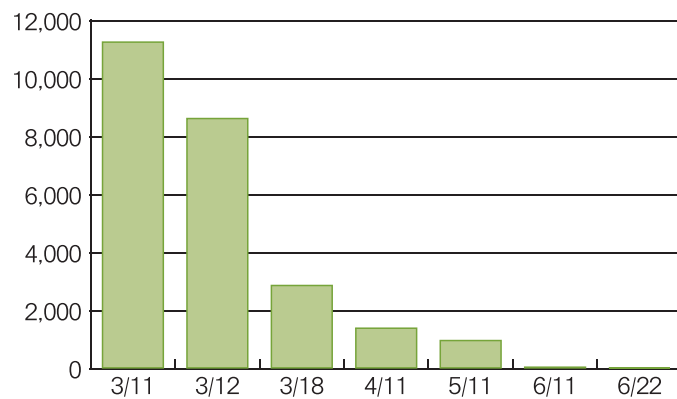
区 分	年 齢	震災孤児 (親が震災で死亡・行方不明となり、 両親ともいない子ども)		震災遺児 (親が震災で死亡・行方不明となり、 両親のうちどちらかがいない子ども)		合 計
		人 数	計	人 数	計	
未 就 学 児	0歳	—	2	3	14	16
	1歳	—		—		
	2歳	—		2		
	3歳	—		1		
	4歳	1		5		
	5歳	1		2		
	6歳	—		1		
小 学 生	7歳	3	10	1	21	31
	8歳	1		3		
	9歳	3		5		
	10歳	—		3		
	11歳	1		3		
	12歳	2		6		
中 学 生	13歳	—	4	2	11	15
	14歳	2		5		
	15歳	2		4		
高 校 生	16歳	2	7	6	18	25
	17歳	3		6		
	18歳	2		6		
合 計		23		64		87

震災記録室調べ

2. 避難者数の推移

	避難者数	避難所数
3月11日	11,233	52
3月12日	8,598	38
3月18日	2,841	26
4月11日	1,368	12
5月11日	943	9
6月11日	24	2
6月22日	0	0

名取市調べ



3. 建物被害

○住家被害（り災証明書申請件数）

種 別	全 壊	大規模半壊	半 壊	一部破損	合 計
被害件数	2,801件	219件	910件	10,061件	13,991件

名取市調べ

○非住家被害（り災証明書申請件数）

種 別	全 壊	大規模半壊	半 壊	一部破損	合 計
被害件数	964件	136件	319件	1,386件	2,805件

名取市調べ

4. ライフラインの被害

	被害内容	復旧状況
電気	3月11日～ 市内全域停電 (H22年9月末契約口数 40,337口)	3月13日夜 山手3団地通電（ゆりが丘、那智が丘、みどり台） 3月15日 津波被害地区を除き市内全域通電
上水道	3月11日～ 市内の一部において断水 最大断水戸数 9,200戸 (H23年2月末使用戸数 27,255戸)	3月27日 津波被害地区を除き全域復旧
下水道	3月11日～ 稼働停止 汚水ポンプ場1か所 雨水ポンプ場6か所 処理場1か所	ポンプ場を応急措置で運転再開 3月20日 関上雨水ポンプ場 4月12日 関上中継ポンプ場 5月25日 新町ポンプ場 H24年3月15日 北釜排水ポンプ場 管路施設は、被災箇所が多くあったが、排水停止には至らなかった。
都市ガス (仙台市ガス局)	3月11日～ 市内全域供給停止 (H22年度末使用戸数 6,295戸)	3月27日 相互台、ゆりが丘、みどり台、那智が丘地区復旧 4月 1日 市内全域復旧
電話 (NTT)	3月11日～ バッテリー及び燃料枯渇に伴い 市内全域、順次サービス停止 { H22年1月回線数 固定電話回線 約20,700回線 IP系回線 約9,900回線 }	〈市内サービス復旧状況〉 3月16日 関上地域以外のサービス回復 4月 6日 関上地域の一部サービス復旧 4月22日 全サービス復旧 ※電柱折損やケーブル断によるサービス停止は含まない。 〈市内特設公衆電話設置状況〉 市内16か所 69回線 〈無料インターネット設置場所〉 市内1か所(名取市文化会館) 1回線 パソコン1台(当初)

震災記録室調べ

5. 交通の被害

		被害内容	復旧状況
鉄道	JR	東北本線 名取～仙台：3/11本震 3月11日～4月1日まで 運休 岩沼～名取：3/11本震 3月11日～4月2日まで 運休 岩沼～仙台：4/7余震 4月7日～4月11日まで 運休 常磐線 巨理～岩沼 3月11日～4月11日まで 運休	4月2日運転再開 4月3日運転再開 4月12日運転再開 4月12日運転再開
	仙台空港鉄道	3月11日～7月22日まで運休	7月23日部分運転再開（仙台～美田園駅） 10月1日全線運転再開
バス	なとりん号 （名取市乗合バス）	3月12日～3月23日まで 全便運休	3月24日～一部路線で平日のみ、土日祝日ダイヤによる運行再開 4月4日一部路線で通常ダイヤによる運行再開 4月11日「宮農線」「北釜線」「関上杜せきのした線」について一部区間の運行再開 5月28日「下増田線」の運行を再開。「宮農線」「北釜線」「牛野名取駅線」の運行区間を拡大
	宮城交通 長町駅～西中田～南仙台～尚絅学院大学	3月11日～3月12日まで運休	3月13日～3月21日 休日ダイヤの始発・最終便を削った上で、さらに5～6割程度に間引いての運行 3月22日 日祝ダイヤの圧縮ダイヤ（始発・最終便を削る）での運行 3月28日 平日・土曜を土曜ダイヤで、日祝は、日祝ダイヤでの運行 4月18日 ダイヤ改正をし、通常運行
	ミヤコーバス 名取駅～関上	3月11日～4月6日まで運休	4月7日 6往復で再開（名取駅～関上小学校間） 6月1日 時刻改正をして運行
	仙台市営バス 交通局大学病院～関上	3月11日～地震・津波により名取市内運行地域（「関上一丁目」～「関上」）は地震発生以降運休	
仙台空港	地震・津波により空港閉鎖（空港の基本施設及び航空無線施設等の被害、電気・水道・ガス等のライフラインアウト、車両等の流出）	4月13日 国内線民航機就航再開（昼間時間帯のみ 6便/日） 6月23日 国際線チャーター便運航再開 7月25日 国内線定期便再開・国際線臨時便就航 9月25日 ターミナルビル全面再開	

震災記録室調べ

6. 道路・橋梁の被害

○市管轄

		被害内容	復旧方法	被害額
道路	沈下・亀裂	322か所	舗装打換	2,900,000千円
橋梁	全壊	開運橋		302,000千円
	橋台、桁破損	3か所	新豊橋、柚ノ木橋、広浦貞山橋	
	沈下	2か所	北釜橋、北釜大橋	架替
合計				4,232,000千円

名取市調べ

○ 県管轄

	被害内容	被害額	
道路	歩道・路面の亀裂 36か所	875,674千円	
橋梁	毘沙門橋	支承破損、段差発生	33,036千円
	宮下橋	高欄破損	2,997千円
	閑上大橋	支承破損、伸縮継手破損、橋梁下部洗掘	88,490千円
合計		1,000,197千円	

仙台土木事務所調べ

○ 国管轄

	被害内容
国道4号	歩道：沈下・段差・クラック 多数 車道：構造物前後の段差 数か所

岩沼国道維持出張所調べ

○ 高速道路

被害内容
沈下、亀裂、段差多数

NEXCO東日本調べ

7. 河川の被害

○ 国管轄

	被災箇所	被害内容
名取川	6か所	堤防天端の亀裂、堤防法面の崩落、低水護岸の崩落、閑上水門の操作設備等の破損

仙台海川国道事務所調べ

○ 県管轄

	総延長	被災延長	被災箇所	被害額	被害内容
増田川	19.16km	1.982km	4か所	2,283,983千円	護岸・堤防の沈下、法面の崩れ
川内沢川	9.38km	3.797km	3か所	1,934,098千円	護岸・堤防の沈下、法面の崩れ
中貞山運河	1.70km	1.577km	1か所	3,005,274千円	護岸・堤防の沈下、法面の崩れ
南貞山運河	5.40km	4.895km	1か所	14,171,110千円	護岸・堤防の沈下、法面の崩れ

※川内沢川、南貞山運河には、岩沼市分を含む。

仙台土木事務所調べ

8. 崖崩れ・地すべり等

大きな被害無し。

9. 産業の被害

○水産業施設の被害

地震直後の大津波により、魚市場を含む漁港施設と、閑上地区内にて水産加工業を営んでいた企業の施設ほとんどが流失し、かろうじて流失を免れた施設についても、津波被害により解体せざるを得なかった。

項 目	概算被害額	被 害 内 容
閑 上 漁 港	5,796,000千円	外郭施設 (防波堤・護岸等) 1,853,000千円 係留施設 (岸壁・船揚場等) 1,979,000千円 水域施設 (航路・泊地等) 1,636,000千円 輸送施設 (臨港道路等) 328,000千円
県漁協閑上支所	472,200千円	漁船関係 (73隻) 310,000千円 建物関係 159,000千円 物品関係 3,200千円
合 計	6,268,200千円	

名取市調べ

○農業施設の被害

東日本大震災による地盤沈下と津波被害によって、農地や農業施設に甚大な被害を受けた。津波による農地の流出・冠水が推定面積1,560haでがれき混じりの土砂堆積も広範囲に発生した。

また、地震によって大型水路が隆起、不等沈下し、揚水機場内では不等沈下及び可撓管の異常変異により被災した。

工 種	概算被害額	被 害 内 容
農 地	36,806,000千円	田 (2,200千円/10a) 30,866,000千円 畑 (2,200千円/10a) 5,940,000千円
施 設	5,495,000千円	用排水機場等 52か所
堤 防	1,153,000千円	防潮樋門等 1か所
道 路	55,150千円	15路線 2,950m
水 路	2,208,550千円	81路線 4,877m
サイフォン	90,000千円	2か所
た め 池	2,500千円	1か所
橋 梁	18,000千円	2か所
合 計	45,828,200千円	

名取市調べ

○商工会会員事業所の被害

商工会会員事業所では、29名の商工会員事業主の尊い命が奪われた。家族や従業員を亡くされた事業所もあった。さらに、施設・機械設備等の被害も甚大なものであった。また、震災により休業していた期間が長く、多くの被災事業所が取引先を消失した。

原発事故に伴う被害としては、風評被害により、水産加工業等売上の減少が挙げられる。

市の中心部である増田地区では、津波被害は免れたものの、3月11日と4月7日の二度の大きな地震により、建物・機械・商品等の被害も多く、脆弱な経営基盤に更なるダメージを与え、廃業を余儀なくされた事業所も多数出している。

破損した賃貸商業ビルや被害の大きかった商店などは取り壊され、更地化し、駐車場やマンション等に建て替えられ、既存商店街は更に空洞化が加速している状況にある。

項目	概算被害額	被害内容	
施設	22,092,270千円	全壊	161件 16,492,000千円
		半壊	93件 4,914,540千円
		一部破損	203件 685,730千円
機械設備等	1,374,000千円	機械器具	324件 324,000千円
		車両	165件 618,000千円
		商品在庫	216件 432,000千円
合計	23,466,270千円		

名取市調べ

10. 文化財の被害

	被害件数	被害物件	被害内容
国指定	5件	洞口家住宅	家屋の壁亀裂・崩落、柱損傷、床沈下等
		旧中沢家住宅	家屋の壁亀裂・崩落、屋根茅脱落、柱損傷等
		雷神山古墳	後円部の墳頂部陥没、標柱破損
		飯野坂古墳群	業師堂古墳付近の擬木柵破損、地面亀裂
		熊野那智神社懸仏・銅鏡	展示品位置のズレ、保管室損傷
県指定	2件	熊野那智神社懸仏・銅鏡	展示品位置のズレ、保管室損傷
		熊野神社本殿	十二社権現の前面東側横木破損
市指定	5件	耕龍寺山門	右側袖部倒壊
		十三塚遺跡出土弥生土器	復元土器（大型壺）破損
		名取熊野堂大館跡出土遺物	復元陶器（瓶子）破損
		名取大塚山古墳	古墳後円部墳頂北側亀裂
		衣笠の松	松枝の支柱欠落
市登録	3件	開運橋	橋落下
		伊達持宗公夫妻供養五輪塔	塔倒伏
		毘沙門堂古墳	墳丘西側石碑倒伏、お堂底部柱ズレ

名取市教育委員会調べ

11. 幼稚園・学校の被害

○幼稚園

	管理教室棟	グラウンド等	被害額
下増田	建物周囲側溝等沈下、壁亀裂	津波浸水により、床壁破損	1,060千円
愛島	建物周囲平板ブロック等沈下、壁亀裂、天井落下、テラス梁破損、サッシ歪み		2,859千円
高館	壁亀裂、天井破損、テラス床亀裂、サッシ歪み		2,568千円
合計			6,487千円

名取市教育委員会調べ

● 名取市の被害状況

○小学校

	管理教室棟	体育館	プール	その他	被害額
増田	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂	基礎根巻コンクリート亀裂、アリーナ照明器具落下		備品損壊	10,865千円
閑上 (使用不能)	津波浸水、漂流物の衝突により1階部分が大破	津波浸水、漂流物の衝突により床・壁破損	津波浸水、漂流物の衝突により大破	津波浸水により遊具全壊、漂流物の堆積	3,000,000千円
下増田	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、教室間仕切り壁倒壊	窓枠サッシ脱落		津波浸水	22,999千円
館腰	エキスパンションジョイント破損、外部階段破損、壁亀裂				2,270千円
愛島	1階教室床沈下、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、渡り廊下鉄骨プレス破損	アリーナ照明器具のずれ	プールサイドコンクリート亀裂	排水管・側溝等沈下、倉庫破損	16,776千円
高館	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、外部水飲み場倒壊	排気口金物落下	プールサイド平板ブロック陥没	倉庫破損	5,653千円
不二が丘	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、照明器具落下				10,683千円
増田西	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、照明器具落下、基礎杭破損	基礎根巻コンクリート亀裂、アリーナ照明器具のずれ	プールサイド平板ブロック陥没	備品損壊 倉庫破損	935,521千円
ゆりが丘	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、教室可動間仕切り破損	排気口金物落下			10,639千円
相互台	建物周囲側溝等沈下、壁亀裂、受水槽パネル破損	ステージ照明灯のずれ		備品損壊	5,145千円
合計					4,020,551千円

名取市教育委員会調べ

※エキスパンションジョイント：建物接合部分

○中学校

	管理教室棟	体育館	プール	その他	被害額
増田	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、壁亀裂	壁鉄骨プレス破損	プールサイド平板ブロック陥没	備品損壊	25,371千円
閑上 (使用不能)	津波浸水・漂流物の衝突により1階部分が大破	津波浸水により床・壁破損	津波浸水・漂流物の衝突により大破	津波浸水により外周フェンス全壊、漂流物の堆積、備品損壊	3,000,000千円
第一	建物周囲側溝等沈下、壁亀裂	天井鉄骨プレス破損、アリーナ照明器具のずれ		備品損壊	20,975千円
第二	エキスパンションジョイント破損、建物周囲側溝等沈下、受水槽パネル破損	アリーナ照明器具のずれ	プールサイド平板ブロック陥没	倉庫損壊	31,115千円
みどり台	壁亀裂			備品損壊	149千円
合計					3,077,610千円

名取市教育委員会調べ

○市立以外の学校

	被害内容
尚絅学院大学付属幼稚園	トイレタイル割れ(2か所)、壁板脱離(1か所)、門扉開閉不全(1か所)、駐車場アスファルトヒビ割れ(3か所)、外壁のクラック(67か所)、電動シャッター動作不全(1か所)
なとり幼稚園	預かり保育施設及び他1棟補修が必要な状態
なとり第二幼稚園	預かり保育施設1棟半壊
ふたば幼稚園	壁崩落、園舎一部に亀裂、園舎各棟の結合部分のズレ、壁隙間拡大、間仕切り壁の破損、ガラス4枚破損
閑上わかば幼稚園(使用不能)	津波により全壊流出
宮城県名取北高等学校	校舎エキスパンションジョイント歪み・はずれ、厨房機器破損、記念会館壁クラック、天井ボード破損、空調パネル・照明の脱落
宮城県農業高等学校(使用不能)	津波が校舎2階まで浸水し、流木・がれきの衝突、流入により校舎1階は壊滅状態。付帯施設等については、浸水により多くの施設が再使用不可能。校地内に大量の汚泥とがれきが流入
宮城県立名取支援学校	校舎各所エキスパンションジョイント落下、地盤沈下に伴う排水管の勾配不良
宮城県高等看護学校	内壁・床亀裂、敷地内地盤沈下
宮城県農業大学校	6階講堂の天井落下、校舎エキスパンションジョイント破損、施設内道路の陥没
国立仙台高等専門学校(名取キャンパス)	法面の崩落、運動場地割れ、武道場地盤沈下・外壁剥離、創造教育センター地盤沈下等
尚絅学院大学	校舎壁亀裂

震災記録室調べ

12. その他教育施設の被害

施設名	被害内容	
公民館	増田(使用不能)	ホール天井破損、照明器具破損、空調吹出し口破損、PC柱傾斜、壁亀裂、ガラス破損、床亀裂、軒天破損、サッシ歪み、ガラス破損
	増田西	ステージ下収納扉破損、換気扇カバー脱落、照明器具外れ、アスファルト舗装破損、門柱破損、空調屋外機基礎破損、地盤沈下
	名取が丘	天井仕上げ材外れ、天井ボード破損・歪み、壁亀裂、照明器具ズレ、照明カバー落下
	閑上(使用不能)	津波が2階フロアまで浸水し使用不能
	下増田	壁亀裂、アプローチ階段破損
	館腰	壁亀裂、アスファルト舗装沈下・亀裂、埋設水道管破損
	愛島	壁亀裂、アスファルト舗装沈下・亀裂、スロープタイル破損
	高館	壁亀裂・剥離、調理室・便所壁タイル浮き
	相互台	外壁出隅部破損、壁吹付けタイル破損
	ゆりが丘	外壁亀裂
	那智が丘	廊下・視聴覚室・図書室クロス亀裂、事務室ブラインド破損
図書館(本館使用不能)	壁崩落・亀裂、天井破損、書架傾倒、ガラス破損、柱脚部破損、外倉庫損壊	
文化会館	大ホール：舞台音響反射板ガイドレール木蓋一部破損、天井一部剥離・脱落、壁亀裂、ガラス破損 中ホール：照明器具外れ、壁亀裂、天井一部剥離落下、客席椅子破損、西側斜壁落下 小ホール：天井防煙垂れ壁変形、床亀裂・段差、螺旋階段床見切プレート剥離 演劇練習室：床亀裂、外壁亀裂 その他：小ホール便所壁剥離、小ホール楽屋照明カバー破損、出入口ドア開閉不具合 外構：地盤沈下による亀裂・剥離	

● 名取市の被害状況

市民体育館	アリーナ：天井空調ダクト一部破損、西側壁脱落、床一部破損、照明器具破損、緞帳一部破れ、トラス梁全柱脚破損 武道場：天井簡易梁支柱落下、壁一部破損・落下、軒天一部落下、天井空調ダクト一部破損 ロビー：天井梁歪み、ガラス破損 外構：階段タイル一部破損、屋根一部破損 その他：外壁亀裂、放送設備一部破損、地盤沈下
第二臨空公園	津波により庭球場・運動広場全壊、管理棟全壊
十三塚公園	管理棟：外回り陥没 庭球場：練習コート壁亀裂 野球場：内壁亀裂、外タイル破損、バックネット支柱亀裂
増田体育館	ブレース座屈、小屋ブレース座屈、壁亀裂、舞台三方枠破損、ステージ照明器具落下
閑上体育館 (使用不能)	津波により全壊・流失
高館体育館	床版沈下・破損、犬走り亀裂・破損、出入口階段亀裂

名取市教育委員会調べ

13. 公共施設の被害額

施設区分	被害内容	概算被害額
道路(橋梁)	道路(沈下、陥没、亀裂、段差)、橋梁(下部構造亀裂)	4,232,000千円
公園	都市公園29か所、その他の公園8か所、緑地法面崩落等5か所、児童遊園2か所、都市排水施設1か所	1,058,802千円
下水道	公共下水道(ポンプ場稼働停止3、一部損傷1、応急対応3)、都市下水路(北釜排水ポンプ場応急対応)、農業集落排水(北釜処理場稼働停止、大曲処理場一部破損、管渠1100m)	8,074,088千円
上水道	本管漏水34件、給水管漏水128件、宅地内漏水362件、送水ポンプ1件、配水池施設3件、浄水施設2件	181,876千円
市営住宅	住宅全壊(14棟115戸、入居者243人被災)、集会所1棟全壊	2,500,000千円
都市施設	名取駅自由通路桁脱落、名取駅プラザ内装材破損	100,000千円
福祉施設	保育所1件全壊、児童センター2件躯体以外全壊・外構陥没、老人福祉センター(松韻荘)1件全壊、保健センター外構亀裂陥没	-
教育施設	※「10. 文化財の被害」、「11. 幼稚園・学校の被害」、「12. その他教育施設の被害」参照	-
市役所	内・外壁・議会棟天井等破損、水道管破損	51,816千円
産業等施設	斎場破損、サイクルスポーツセンター全損(使用不能)、海浜プール全損(使用不能)、働く婦人の家全損(使用不能)、地域職業相談室破損	-
水産業施設	閑上漁港、県漁協閑上支所全壊 ※「9. 産業の被害 ○水産業施設の被害」参照	6,268,200千円
農業施設	※「9. 産業の被害 ○農業施設の被害」参照	45,828,200千円
消防施設	地震被害：消防本部主救助訓練塔1棟全壊、消防本部副救助訓練塔1棟一部損壊、消防団詰所及び車庫1棟一部損壊 津波被害：消防署閑上出張所1棟全壊、潮位観測装置1式全損、水槽付ポンプ車1台全損、マイクロバス1台全損、水防倉庫2棟全壊、消防団員詰所及び車庫6棟全壊、小型動力ポンプ付積載車7台全損	227,427千円
その他施設	集会所(全壊3棟、床上浸水2棟、床下浸水1棟、一部破損5棟)、緩衝緑地全壊1か所(3,370m)、航空機騒音測定装置2か所全損、市民活動支援センター全壊(使用不能)、防災行政無線8か所、監視カメラ局1か所、個別受信機27か所	-

震災記録室調べ

14. 公共施設の主な被害

○地震により被害を受け、取り壊された施設

図書館、増田公民館、市民活動支援センター

○津波により被害を受け、取り壊された施設（予定含む、地区集会所除く）

サイクルスポーツセンター、閑上海浜プール、老人福祉センター（松韻荘）、閑上保育所（津波により流失）、閑上児童センター、閑上公民館、働く婦人の家、閑上体育館（津波により流失）、宮城県農業高等学校、市消防署閑上出張所（予定）、閑上小学校（予定）、閑上中学校（予定）

○震災により被害を受け、完全復旧に時間を要した施設

文化会館（復旧まで約1年）、斎場（復旧まで約1年10か月）、市民体育館（復旧まで約2年）

第4節 ● 火災の状況

今回の震災による火災の原因は全て津波によるものであった。地震発生時刻が午後2時46分と比較的火を使用しない時間帯であったため、地震そのものによる火災が発生しなかったのは幸いであった。

1. 火災件数と面積

	住家	非住家	がれき	合計
件数	3件	2件	7件	12件
焼損面積 (㎡)	252.28	4,265.80	16,192.80	20,710.88

※建物被害には含めず。

名取市消防本部調べ

○火災区分

	全焼	半焼	部分焼	合計
住家	2件	0件	1件	3件
非住家	1件	1件	0件	2件

名取市消防本部調べ

2. 原因

火災の原因は、全て東北地方太平洋沖地震で発生した津波により流されてきたがれきや車両からの出火であった。

津波により流されてきた乗用車の電気配線がショートして飛び散った火花が着火し、2、3メートルぐらいまで上がった炎が天井部分に接触して延焼拡大していったものと推定される1件と、燃えたがれきが流されてきて衝突し、外壁に延焼した1件を除き、どのような状況で火が点いたかは不明であり、何らかの火源が着火し燃え広がったものと推定される。

地震動被害

震度6強という、立っている事すらできない激しい揺れにより、建物の躯体や屋根・壁等の被害が広範囲で起き、震災後屋根にビニールシートを被せた家かなり目立った。しかし、被害軒数が多すぎて修理のめどが立たず、その光景はしばらくの間続いた。

大きな被害を受けた建物は、震災後取り壊しが始まり、市内では空き地が目立った。

住宅は建て替えを行う家が多かったが、店舗はそのまま閉店や廃業してしまうところもあった。



増田

① 平成23年3月16日 個人



閉上の倒壊した家屋、その後津波が襲来した。

② 平成23年3月11日 (株)ささ圭



大手町

③ 平成23年3月12日 名取市



日付は撮影日です。
日付の後の氏名や会社名等は
写真提供者です(敬称略)。

増田

④ 平成23年3月17日
個人



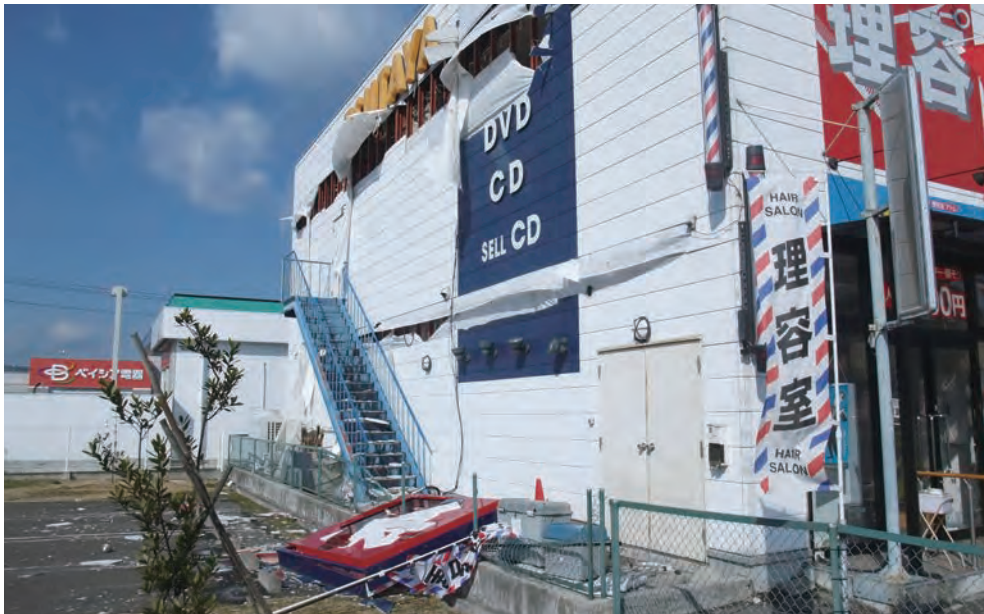
大手町

⑤ 平成23年3月12日
個人



手倉田

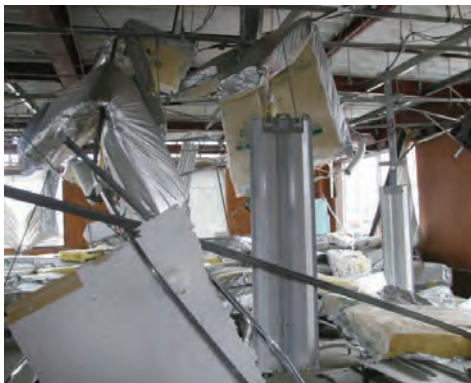
⑥ 平成23年3月15日
個人



田高

地震動により被害を受けた店舗

⑦ 平成23年3月12日
個人



⑧ 日付不明
名取岩沼農業協同組合

高館川上

⑨ 日付不明
名取岩沼農業協同組合



手倉田

⑩ 平成23年3月15日
個人



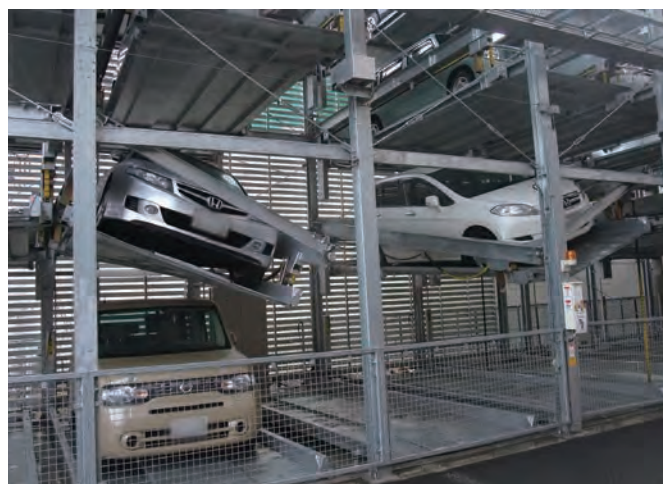
植松

⑪ 平成23年3月20日 個人



田高

⑫ 平成23年3月24日 個人



手倉田

⑬ 平成23年3月16日 個人



手倉田

⑭ 平成23年3月12日 個人



手倉田

⑮ 平成23年3月12日 個人



愛島笠島

JAの米倉庫

⑩ 日付不明
名取岩沼農業協同組合



美田園

ホームセンター内

⑪ 日付不明
スーパービバホーム新名取店



植松

⑫ 平成23年3月12日
(株)ウェルネス伯養軒



名取市役所内部

⑱ 平成23年3月11日
名取市



名取市役所ロビー

⑳ 平成23年3月12日
名取市



名取市図書館のカウンター付近

市図書館・増田公民館・市民活動支援センターは、建物が古かったこともあり地震動の被害が大きく、使用不能となった。

㉑ 平成23年3月12日
名取市



ブロック塀の倒壊

1978年の宮城県沖地震で大きな被害を出したブロック塀の倒壊だが、今回も市内で何か所か倒壊した。

大手町

② 平成23年3月12日
個人



応急判定

④ 平成23年3月22日 個人

大手町

③ 平成23年3月13日
個人



道路や歩道の部分的な沈下や橋の連結部の段差など、地震動により市内各所に被害が発生した。

大手町

段差ができ、通行止めとなった橋

⑤ 平成23年6月23日
名取市



愛島塩手 表面のアスファルトを残し地盤沈下。

26 平成23年3月17日 個人



飯野坂

27 平成23年3月14日 名取市



28 平成23年3月18日 名取市



高館川上

29 平成23年3月11日 名取市



美田園 増田川堤防 土手の一部が崩落。

30 平成23年3月11日 名取市



液状化現象により電柱が埋没、
道路には砂と水が広がっている。

関上5丁目

液状化現象

関上・下増田地区を中心に液状化
現象が起きたが、沿岸部はその後
津波に襲われたため、具体的な確
認が行えなかった。

③1 平成23年3月11日
株ささ圭



関上4丁目 名取川河口堤防
車が砂に埋まっている。

関上2丁目

水浸しになっているバス通り。

③2 平成23年3月11日
小齋誠進



高館吉田

停電により信号機が消えた交差点で、
交通整理をする警察官

信号は、広範囲に長時間作動せず、
復旧するまで大変危険な状況だった。

③3 平成23年3月11日
名取市

津波襲来

まさかこれほど大きな津波が来るとは、誰も予想できなかった。
テレビに映し出される、関上や下増田地区が津波にのみこまれていく光景を初めて見たとき、ほとんどの人は、とても現実の事とは思えなかったのではないだろうか。



関上港と名取川に流入する津波

この後、関上の街並みは津波にのみこまれた。

③④ 平成23年3月11日 海上保安庁



関上港に流入する津波

③⑤ 平成23年3月11日 海上保安庁



名取川を遡る津波

この後の大津波によって、溢れた水が両岸を襲った。

③⑥ 平成23年3月11日 海上保安庁



関上の町に押し寄せる津波

③7 平成23年3月11日
海上保安庁



関上大橋から見た津波

津波を見た人の証言によく出てくる、津波による「黒い煙」を捉えた写真。当初は津波だとは思えなかったようだ。

③8 平成23年3月11日
名取市消防本部



名取市消防署関上出張所付近から撮影

③9 平成23年3月11日
金矢泰弘



④0 平成23年3月11日
金矢泰弘



名取市消防署関上出張所付近から撮影

④① 平成23年3月11日 金矢泰弘



関上5丁目から撮影

④② 平成23年3月11日 (株)佐々直



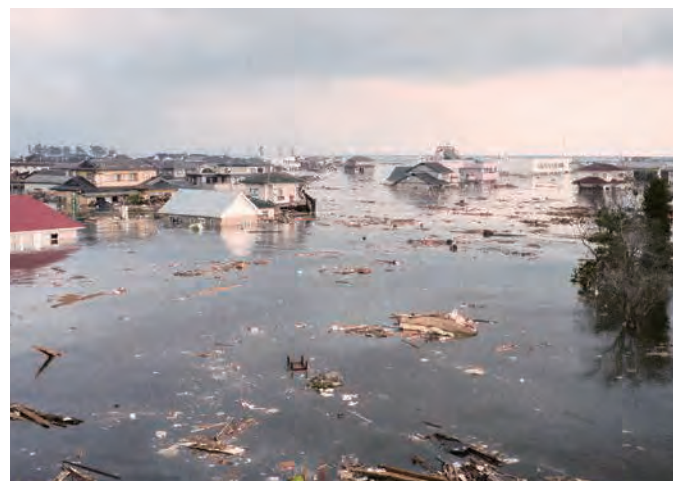
関上5丁目から撮影 奥に見えるのが関上の「日和山」

④③ 平成23年3月11日 (株)佐々直



関上中学校の校門付近

④④ 平成23年3月11日 エリック・チャン



関上中学校から見た関上1・2丁目方面

④⑤ 平成23年3月11日 エリック・チャン



仙台東部道路(高速道路)まで
押し寄せた津波

④6 平成23年3月11日
名取市



仙台東部道路の名取インターチェンジ
付近に避難する人々

写真右側が海側で、津波が押し寄
せている。
この高速道路が防波堤の役目をし、
津波の多くがここで堰き止められた。

④7 平成23年3月11日
名取市



閑上地区内陸部

田んぼを進む津波

④8 平成23年3月11日
橋浦精麦倉庫(株)



宮城県農業高等学校 校舎は使用不能となり、市の内陸部に移転した。

④9 平成23年3月11日 宮城県農業高等学校



宮城県農業高等学校

⑤0 平成23年3月11日 武田陽介



巨大津波にのみこまれていく仙台空港

⑤1 平成23年3月11日 海上保安庁



仙台空港滑走路

⑤2 平成23年3月11日 松木良夫



仙台空港アクセス鉄道の仙台空港駅
電車が停車している。

⑤3 平成23年3月11日 仙台空港ビル(株)



仙台空港

54 平成23年3月11日 松木良夫



仙台空港ターミナルビルから見た滑走路 津波が押し寄せて来た瞬間。

55 平成23年3月11日 仙台空港ビル(株)



名取市沿岸部

56 平成23年3月11日 松木良夫



仙台空港付近

57 平成23年3月11日 松木良夫



仙台空港の管制塔が見える。 58 平成23年3月11日 海上保安庁



下増田地区内陸部

増田川を逆流し遡上する津波

59 平成23年3月11日
グリーン企画建設(株)

増田西大橋(増田川)
河口から約7km、津波により
軽自動車がここまで流された。
60 平成23年3月12日 個人



下増田地区内陸部

住宅街に押し寄せる津波

61 平成23年3月11日
グリーン企画建設(株)



下増田地区内陸部

62 平成23年3月11日
名取市

津波被害

津波は、全てをのみこんで破壊し尽くした。

暗闇と混乱の中、不安と悲しみのまま夜を明かした翌朝、変わり果てた光景を目の当たりにして、人々は呆然とするほかなかった。

津波は、多くの命や家を奪い去っただけでなく、農地や防潮林にも被害を及ぼし、除塩や自然回復まで多くの年月を必要とする深い爪痕を残した。

関上地区沿岸部



関上海浜プールの時計と滑り台 津波によって倒された「その時」を示している。

63 平成23年9月4日 西口なおみ



サイクルスポーツセンター屋上から撮影
防潮林のほとんどが津波により倒されている。
この後、生き残った木も塩害により一斉に枯れてしまった。

64 平成23年5月19日 名取市



サイクルスポーツセンターと関上海浜プール 65 日付不明 松木良夫



関上地区沿岸部

⑥⑥ 平成23年3月12日 海上保安庁



広浦橋

⑥⑦ 平成23年3月14日
名取市



関上漁港魚市場 屋根の鉄板が津波により剥がされ漁港塔に巻き付いている。

⑥⑧ 平成23年3月15日 名取市



⑥⑨ 平成23年4月2日 名取市



関上地区沿岸部

70 平成23年3月18日 名取市



関上4丁目 東北学院シーサイドハウス(ボート部漕艇庫)

71 平成23年3月23日 個人



関上4丁目 関上漁港付近

72 平成23年3月23日 個人



日和山 標高6.3m、海岸からの距離は約800m、山の頂上から2.1m上まで浸水した痕跡が残っていた。頂上に民家の屋根が流れ着いている。

73 平成23年4月2日 名取市



関上3丁目付近から見た日和山

74 平成23年3月13日 東光彦



関上4丁目付近 日和山からみた住宅地跡
津波により家屋はほとんど流出し、家の基礎(コンクリート)のみが残った。

75 平成23年3月19日 個人



関上3丁目付近
日和山から見た住宅地跡

76 平成23年3月26日
橋浦精麦倉庫(株)



関上6丁目

77 平成23年3月26日 グリーン企画建設(株)



関上6丁目

市営住宅広浦第二団地

78 平成23年3月13日 東光彦



関上6丁目 日和山団地集会所
上に乗っているのは、原型を留めていないカシバスである。

79 平成23年3月21日 個人



関上6丁目付近

80 平成23年3月14日 名取市



名取市立関上保育所跡 建物は流出し、基礎のみ残る。
迅速な避難により、子どもたちは全員無事だった。

81 平成23年3月18日 名取市



貞山運河

82 平成23年3月23日 個人



関上7丁目付近

83 平成23年3月12日 松本康裕



関上地区沿岸部

84 平成23年3月18日
名取市



名取市関上児童センター

名取市の沿岸部の公共施設は、
ほぼ全て津波により被害を受け、
その多くは取り壊された。

85 平成23年3月18日
名取市



名取市働く婦人の家

86 平成23年4月20日
名取市



名取市働く婦人の家内部

87 平成23年3月17日
名取市



閑上2丁目

88 平成23年3月12日
名取市



閑上2丁目付近

中央奥には東禅寺が見える。

89 平成23年3月20日
橋浦精麦倉庫(株)



閑上2丁目

震災によって倒れたお墓

90 平成23年3月20日
橋浦精麦倉庫(株)



関上1丁目

91 平成23年3月12日 名取市



後ろに見えるのは名取川

92 平成23年3月18日 名取市



関上1丁目

93 平成23年3月17日 グリーン企画建設(株)



関上1丁目

94 平成23年3月14日 洞口周士



95 平成23年3月27日 高橋祐治



名取市消防署関上出張所

96 平成23年3月13日
名取市消防本部



関上中学校

97 平成23年3月17日
名取市



関上中学校昇降口付近

98 平成23年3月14日
八森伸



閑上中学校校庭
住宅の2階部分が流されてきている。

100 平成23年3月12日
八森伸

閑上中学校校庭

99 平成23年3月11日
八森伸



閑上中学校1階教室内
黒板に津波の跡が残る。

101 平成23年3月14日
八森伸



閑上中学校1階教室内

102 平成23年3月14日
八森伸

関上地区内陸部

関上五叉路付近

103 平成23年3月12日
橋浦精麦倉庫(株)



左の写真の店舗内部

104 平成23年4月6日 橋浦精麦倉庫(株)



関上五叉路付近

105 平成23年3月12日
橋浦精麦倉庫(株)



関上小学校

106 平成23年3月12日
名取市



関上小学校

107 平成23年3月11日
田宮恵子



関上小学校1階廊下

108 平成23年3月22日
名取市



関上小学校1階教室内

109 平成23年3月22日
名取市



関上大橋西側

⑩ 平成23年3月13日
橋浦精麦倉庫(株)



小塚原

県道129号関上港線
(通称「関上街道」)に
船が乗り上げている。
海からは約3km。

⑪ 平成23年3月12日
名取市



小塚原

⑫ 平成23年3月12日
(有)若生技建



小塚原

東北一の生産量を誇る特産のカーネーションのハウスにも津波が押し寄せた。

⑪③ 平成23年3月12日
名取市



小塚原

⑪④ 平成23年5月7日
名取市



小塚原

本来は一面の田んぼであったが、すべてがれきで埋め尽くされている。

⑪⑤ 平成23年3月19日
個人



小塚原

116 平成23年3月13日
東光彦



小塚原

津波が仙台東部道路で堰き止められ、残ったがれき。

117 平成23年3月13日
東光彦



仙台東部道路西側

「関上街道」との交差・開口部

119 平成23年3月13日
東光彦



118 平成23年3月23日 個人

下増田地区沿岸部



仙台空港アクセス鉄道の地下部分も水没した。

120 平成23年3月18日
名取市



北釜地区

121 平成23年3月18日
名取市



北釜地区

津波により破壊された防潮堤。
津波が乗り越えた勢いで堤の陸側の土がえぐり取られている。

122 平成23年3月27日
名取市消防本部



北釜地区

123 平成23年3月15日 名取市



北釜地区

124 平成23年3月18日 個人



北釜集会所

125 平成23年3月25日
名取市



北釜地区

津波により流されたビニールハウスの骨組み

メロンとチンゲン菜が特産だった。

126 平成23年3月15日
名取市消防本部



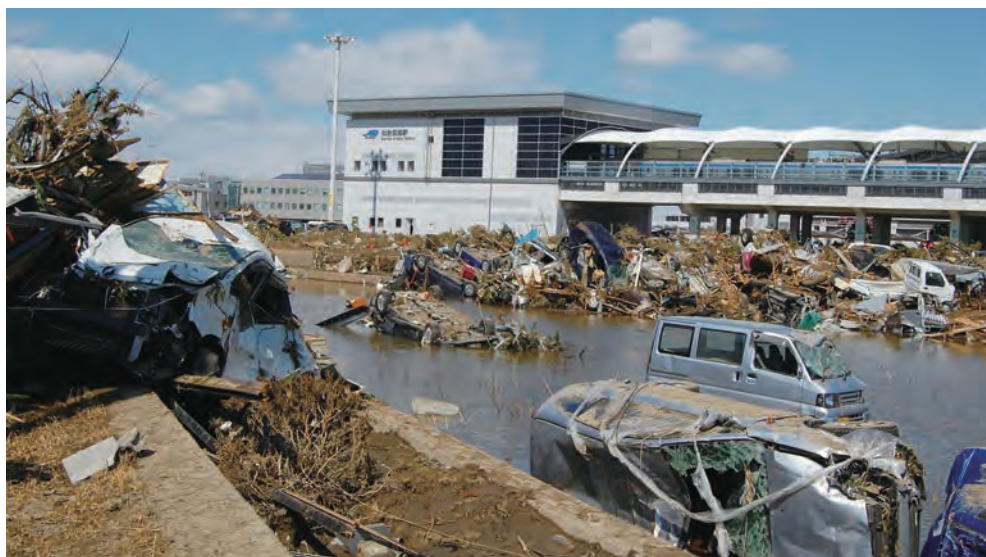
仙台空港滑走路 砂やがれきとともに空港付近の駐車場にあった無数の自動車が流されてきた。 127 平成23年3月13日 松木良夫



仙台空港

高い建物が管制塔

128 平成23年3月22日
名取市消防本部



仙台空港アクセス鉄道の
仙台空港駅

129 平成23年3月18日
個人



右奥に見えるのが仙台空港アクセス鉄道仙台空港駅
⑬〇 平成23年3月18日 個人



仙台空港ターミナルビル前
⑬1 平成23年3月18日 個人



仙台空港ターミナルビル1階内部
⑬2 平成23年3月16日 仙台空港ビル(株)



仙台空港ターミナルビル1階内部
⑬3 平成23年4月2日 名取市



広浦地区
⑬4 平成23年3月12日 (株)オイルプラントナトリ



宮城県農業高等学校

135 平成23年3月30日
宮城県農業高等学校



137 平成23年3月11日
宮城県農業高等学校

宮城県農業高等学校内部

136 平成23年3月30日
宮城県農業高等学校



杉ヶ袋地区 県道「塩釜-亘理線」 県南部の海岸沿いを走る主要な県道。電柱の間が道路。

138 平成23年3月13日 (株)ワタケン



杉ヶ袋地区

139 平成23年3月13日 名取市



杉ヶ袋地区

140 平成23年3月17日 個人



142 平成23年3月13日 東光彦

美田園

141 平成23年3月12日
株成田鋼業



館腰地区植松

名取市における陸上での津波の最深遡上地点。写真左が海側。
津波は、仙台東部道路開口部から進入し、国道4号線付近まで達している。

143 平成23年3月13日 松木良夫

火 災

火災の原因は、津波で流されてきたがれきや車両からの出火であった。

津波により流されてきた乗用車の電気配線がショートして飛び散った火花が着火し、燃え上がった炎が家に接触して延焼拡大していったものや、燃えたがれきが流されてきて家に衝突し、延焼したと推定される。



津波襲来と同時に火災も発生した。

144 平成23年3月11日 エリック・チャン



145 平成23年3月11日 (株)佐々直



146 平成23年3月11日 池田良



147 平成23年3月13日 東光彦



148 平成23年3月11日 松本康裕



149 平成23年3月11日 金矢泰弘



火災は夜も続いた。

150 平成23年3月11日 松本康裕



がれき置き場で発生した火災

平成23年9月16日 151 名取市(大)・152 名取市消防本部(小)

関上地区沿岸部



①働く婦人の家 ②関上公民館 ③関上体育館跡 ④関上児童センター ⑤消防署関上出張所 ⑥貞山運河
⑦老人ホーム「うらやす」 平成23年3月30日 撮影：名取市



①関上中学校 ②関上小学校 ③五叉路 ④関上大橋 ⑤県道10号「塩釜 - 亘理線」 平成23年3月30日 撮影：名取市

下増田～仙台空港付近



平成23年3月30日 撮影：名取市

下増田（北釜）～仙台空港付近



平成23年3月30日 撮影：名取市

道路啓開・撤去

人命の救助を最優先とするため、名取市における道路の啓開作業の着手は早く、市内の建設業組合の協力を得て当日の夕方6時頃から作業を開始し、夜を徹して作業を進め、翌朝には閉上まで到達した。
その後、順次範囲を広げながら人命救助のための道を切り開いた。



夜を徹して行われた懸命な道路啓開作業 「閉上街道」の仙台東部道路名取インターチェンジ付近。 153 平成23年3月12日 名取市



内陸部から閉上へ向う「閉上街道」 154 平成23年3月12日 名取市



155 平成23年3月13日 名取市



156 平成23年3月13日
名取市



関上五叉路付近
啓開しているのは、
県道「塩釜-亘理線」。
157 平成23年3月13日
（株）ワタケン



158 平成23年3月15日
名取市



159 平成23年3月16日
名取市



160 平成23年3月16日
名取市



161 平成23年3月16日
名取市



震災1週間後の関上

懸命な道路啓開とがれきの撤去作業により、場所によっては、かなり片付いている。

162 平成23年3月19日
個人



米軍により、仙台空港の滑走路が使用可能となった。

163 平成23年3月18日
国土交通省



震災から10カ月後の関上地区沿岸部

164 平成24年1月29日
松木良夫

災害ボランティアセンターの活動



泥出し
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年3月20日



泥出し
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年3月25日



家屋の整理
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年3月25日



家屋の整理
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年3月29日



写真の洗浄
平成23年4月16日

提供：名取市社会福祉協議会



写真の洗浄
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年4月16日



使用資材の積み込み
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年6月18日



紙芝居の読み聞かせ
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年3月19日



避難所での活動
撮影：名取市

平成23年4月14日



図書館の引っ越し作業
撮影：名取市

平成23年4月28日



仮設住宅入居の手伝い
撮影：名取市

平成23年5月3日



仮設住宅入居の手伝い
提供：名取市社会福祉協議会

平成23年5月13日



仮設住宅のベンチの設置
撮影：名取市

平成23年8月31日

震災前後の比較写真

関上港と関上地区沿岸部の町並み



平成13年9月24日 提供：一般社団法人東北地域づくり協会（旧社団法人東北建設協会）

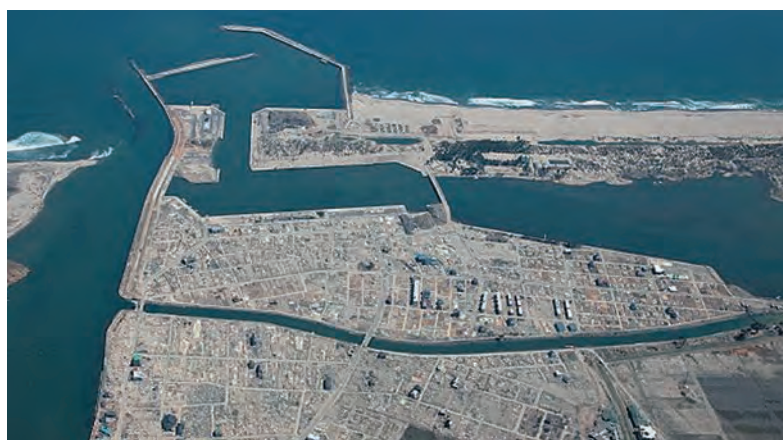


平成23年3月27日 提供：一般社団法人東北地域づくり協会（旧社団法人東北建設協会）

関上港と関上地区沿岸部



平成19年5月
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)



平成23年4月17日
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)

防潮林

サイクルスポーツセンター
コース内の防潮林

平成22年7月16日
撮影：名取市



平成23年9月29日
撮影：名取市





閑上海浜プール

平成20年8月4日
提供：佐藤直樹



平成23年3月18日
撮影：名取市

閑上公民館と
体育館・児童センター



平成21年8月15日
提供：エリック・チャン



体育館は、津波で流失

平成23年3月13日
撮影：名取市

閑上一丁目



平成20年8月9日
提供：佐藤直樹



平成23年3月13日
撮影：名取市

閑上二丁目

平成20年8月4日
提供：佐藤直樹



平成23年3月15日
撮影：名取市



貞山運河と町並み



平成22年12月7日
提供：エリック・チャン



平成23年3月15日
撮影：名取市

平成22年10月10日
提供：エリック・チャン



平成23年3月13日
撮影：名取市





平成21年8月13日
提供：エリック・チャン



平成23年3月17日
撮影：名取市

開運橋



平成20年7月12日
撮影：名取市



市登録文化財の開運橋は、
完全に崩落した。

平成23年3月13日
撮影：名取市消防本部

仙台空港



平成22年4月4日 提供：国土交通省



平成23年3月11日 提供：松木良夫



仙台空港と下増田地区の町並み

平成11年9月
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)



平成23年3月27日
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)

平成22年7月
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)



平成23年4月17日
提供：一般社団法人東北地域づくり協会
(旧社団法人東北建設協会)





名取市合同慰霊祭 平成23年6月18日

撮影：名取市



名取市合同慰霊祭
撮影：名取市

平成23年6月18日



名取市合同慰霊祭
撮影：名取市

平成24年3月11日



キャンドルナイト in 関上 平成23年8月13日

提供：(株)ペナントコーポレーション



なとり鎮魂灯籠流し
提供：(株)ペナントコーポレーション

平成23年8月13日



なとり鎮魂灯籠流し
提供：(株)ペナントコーポレーション

平成23年8月13日

地震の時

震災時は、大学が春休み期間でした。その日は、祖父と弟と3人で自宅にいました。地震が起きた時、揺れが今までに経験したことがないくらい大きいものだったので、「すぐに逃げなきゃ」と思いました。そこで祖父と弟を車に乗せ、閑上公民館のグラウンドに避難しました。その時は正直、津波が来るかどうかというより、「今の地震って宮城県沖地震かな、これからどうなっちゃうのかな」ってことばかり考えていました。

公民館に避難した後、防災無線も聞こえなくて、弟が持ってきたラジオから「高台に逃げてください」とアナウンスがあって、公民館より高い建物は閑上小学校か閑上中学校だったので、とっさの判断で小学校に移動することにしました。車で小学校に避難する際に、中学校に向かう車が渋滞しているのを見たので、渋滞を逃れるために脇道を通りました。

私が小学校に着く頃には、津波がすぐ近くまで迫っていました。車から降りた時に「津波が来るぞー、早く上に上がれー」という叫び声が聞こえたので、一目散に校舎の3階まで上がりました。もし、脇道を通ってなかったら、逃げ遅れていたかもしれません。

校舎の3階から黒い波が押し寄せるのを「本当に津波が来たんだ」と呆然と眺めていました。

小学校に避難

小学校の教室の床は、タイル貼りで底冷えが激しかったため、とても床に座っていただけませんでした。そこで底冷えを防ぐために画用紙やカーテンを床に敷いて、辛うじて寒さをしのいでいました。私は寒さによる体力の消耗を防ぐ意味で横になっていました。津波によって流されてきた、がれきと大量の海水によって孤立した状態になり、水が引かないと自衛隊が救助に来れないと学校の先生から話がありました。

小学校で1晩過ごすことになり、何もすることが無かったので、教室の窓から遠くを見て、「家は大丈夫か」という心配をしていました。周りにいた人たちは、携帯電話で家族や友人の安否確認をしていました。また、ラジオ等で情報の収集もしていました。余震が起こるたびに、「いつになったらこの揺れは収まるのだろう」という不安を抱えながら、夜が明けるのを今か今かと待っていました。学校の先生方は、自分たちの家族の安否の不安を抱えた中でも、水が止まってしまったトイレ掃除を行うなど精力的に動いてくれました。

次の日の朝、自衛隊ががれきをかき分けて救助に向かっているという連絡を小学校の先生から受けて、「よし、助かった」と安心しました。自衛隊が着いた時に、救援物資としてパンや飲み物が配布されました。その後先生から、「名取市内の別な小学校に移動するように」との連絡を受け、迎えのバスが来るまで教室で待機していました。その間、続々と自衛隊員に救助された人たちが、小学校に運び込まれている様子を見て、衝撃を受けたのを今でも覚えています。

迎えのバスが着いたと連絡が入り、歩いてバスに向かいました。その時に外の光景を見て、変わり果てた閑上の姿に唖然としました。

館腰小学校に避難

館腰小学校の体育館には、閑上だけでなく多くの方々が避難されていました。中は、暖房が効いていて、支援物資として毛布なども配布されていたので、寒さを防ぐことは出来ました。救援物資としてパンが配布されていたので、食べるものには困りませんでした。ボランティアの人が来てくれて、おにぎりを握ってくれたり、炊き出しなんかもいろいろあり、温かいお蕎麦や汁物をいただく事が出来ました。

大学は、5月の下旬まで休みだったので、避難所にいる間は、日中は本を読んだり、運ばれてくる救援物資の搬入のお手伝いをしていました。携帯電話が津波で流されたので、早く友達に会いたいという気持ちで過ごしていました。

避難所生活は、2か月くらいでした。その間、様々な方から支援を受けたので、とてもありがたかったです。

ボランティアに加わる

避難所生活を通して、大学生として何かしなきゃという思いをずっと抱いていたので、大学が始まってからすぐに大学の災害ボランティアに登録しました。授業があったので、すぐに活動に参加はできませんでしたが、秋頃に私が住んでいる仮設住宅の集会所に行った時に、ボランティア活動をしている学生を見つけたので、ここでの活動だったらできるなど思いました。そして、活動していた人に声を掛け、次の活動から参加する事になりました。それから、何かボランティア活動があるたびに率先して参加していました。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、合同でキャンドルナイトや催し物をやったりして、すごく充実した日々を過ごさせていただきました。

仮設住宅に

私は、以前は一軒家に住んでいたのですが、仮設住宅の中はだいぶ狭く感じます。住んでみて、閑上にいたときより山が近くなったと感じます。逆に海が遠くなってしまったので、夏に友達と海に行ったり、プールに行ったりという機会が少なくなりました。あと、花火を見に行くにも車や送迎のバスを利用しなくてはならなくなった事に不便を感じます。

しかし、悪い事ばかりではありません。ボランティア活動などを通じて、それまで顔も知らなかった方々と接する機会が増えて、人のつながりというのを強く実感します。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、他の大学生との交流が出来た事も非常に大きいです。

閑上の良いところ

海は近いし、空気は良くて過ごしやすい。それと毎週日曜日に朝市があって、新鮮な野菜や魚を買うことができ便利です。

あと、「なとり夏まつり」の花火ですね。ものすごくきれいなんですよ。毎年、友達と見に行っているんですが、いつ見ても感動しますね。

地震の時

元は、閑上3丁目。日和山のすぐ近くです。地震の時は、自宅にいました。すごかったです。立ってられませんでした。玄関から逃げられるような状態にして、太い柱のところにつかまっていました。下駄箱は倒れるし、これはまずいと思いました。とてつもなく揺れて、一瞬だめかと思いました。その時は1人でいて、心細かったです。しばらくして、大きな揺れが止みました。「すぐ家の中を片付けなくては」と思い、夢中になって片付けをしました。茶の間の仏壇の花瓶は、倒れたけど壊れなくて少し安心しました。台所は、冷蔵庫は倒れてなかったけど、あたり一面凄かった。とにかく、早く片付けることにばかり夢中になってました。

外に出て道路に行きました。そしたら、みんな近所の人たちが出てて、瓦落ちたとか、みんな3分ぐらい話して、ほんと安堵したような顔でした。宮城県沖地震が来るって言われて、オオカミ少年じゃないけど、何回も言われてきましたから。今後は、それほどの大地震にはあわずに済むと思うとほっとしました。

片付けに必死でした。多分、皆さんもそうだと思います。30分以上も片付けした後、停電に気付き、携帯のラジオを思い出し、スイッチを入れました。「津波が来る」と言っていました。でも大したことないと思いました。閑上には津波は来ないと誤った先入観を持ってましたから。津波が来ても、1mぐらいだろうと自己判断し、それでも車で逃げることにしました。とりあえず免許証とバッグだけ持って、着の身着のまま出ました。すぐ戻ってくるつもりでいました。避難する道路に迷いましたが、バス通り、閑上中学校、生協の通りは渋滞すると思い、斎場を通り、小塚原に行き、田んぼの中を宮城県農業高校方面に向かって、塩釜―亘理線の県道を西方に越えればと考え運転しました。その道路は、あまり車は通行していません。交差点を慎重に渡ってから、コンビニに寄りました。ひと安心しました。みんなコンビニでパンとか、食料品をいっぱい買ってるので、自分もペットボトルのお茶やパンを10個ぐらい買いました。その時コンビニの前の道路に、サラサラと水が流れてきました。まさかと思いながら慌てて車に乗り、すぐそこから脱出しました。間一髪でした。さらに西の、イオンモール名取エアリ方面に脱出しました。ラジオもつけてて、仙台の藤塚あたりに200人が砂浜に打ち上げられたと聞いた時は、恐ろしくなりました。仙台空港にも津波が来たニュースで、事の重大さを知りました。それでも我が家は、床下の水位だと思って戻ろうとしました。この時まで、まさか津波で閑上の町が失くるとは夢にも思いませんでした。

消防団がいて、「もう行けないよ」と言われ、2か所の検問で戻れないことを知りました。バイパスに出ようと走行したが、大渋滞。車が全然動かさず困ったが、増田に弟がいるから、とりあえずそこを目指し、何時間もかかって着きました。雪もちらついたり、夜になり、泊まることにしました。主人は仕事でしたが、携帯はつながりません。娘に何回も電話しましたが、つながらず心底困りました。それでも夜遅く連絡が取れた時は、ほっとしました。

公民館には避難しなかった

多分私は、渋滞すると思ってました。とにかく県道より西に逃げることに決めました。逃げる際も県道は、大渋滞するからそこを走行してはまずいと思い、農道を走りました。

それからの避難

弟の家には2泊しました。ガソリンも少ないし、動かなくていいと弟に言われ、みんなで買って来たパンを夕食にしました。2日目は、姉がおにぎりを大量に持ってきてくれました。その後、利府町の次女の家で生活しました。長女は、仙台市にいたので孫の世話、食事作りなどそこでも生活しました。食料確保が一番大変でした。

だいぶ期間が過ぎてからアパート探しを始め、美田園の物件を探しましたが、空きがなく、今のアパートを借りました。入居したのは4月中旬からでした。第2の人生が始まりました。

アパートを借りる

友達もいなく、近所の付き合いもなかったから。家財道具など何もかも流出したので、不自由と戸惑いは大きかったです。今まで何気なく生活していたのが、一瞬にして慣れない生活になったから、大変でした。家財道具、必需品の購入が思うようにいかずに苦労しました。冷蔵庫、ガス台、電灯など売り切れ状態でしたが、かろうじて購入、確保しました。

このような生活は、もちろん今まで経験したこともありません。必死なだけで、なんとなくの生活です。閑上の地域の方々が、当方面に生活され、時に顔見知りの人と会うと、お互い無事を確認し、いろいろとお話をしたり言葉をかけあっています。懐かしさがこみ上げてきます。とてもうれしくなりました。

日本赤十字からの支援物資は大変ありがたく、生活を援助していただきました。また、いろんなところや企業からの心温まる支援は、私たちが元気づけるものでした。遠い長野からの炊き出しで、みんなでいただいたおいしい蕎麦など涙が出る思いでした。借り上げ賃貸も徐々にご配慮いただき、ありがたいと思っています。また、家賃も全額補助していただき感謝しています。

一番悲しいのは亡くなった人のこと

一番悲しいのは、亡くなった人のことです。親戚、友人、知人、近隣の人など大勢の方々が亡くなって、言葉を失いました。震災前まで気軽にお茶っこしたり、お話した方々が一瞬にして命を奪われたのですから、滅入ってしまいました。

今後のこと

もう閑上には、戻らないつもりでいます。土地をかさ上げしても、住みたい気持ちがわいてきません。何十年も住んで、閑上の良さは心に十分染みております。思い出は、一生胸にしまっておきます。

このサロンは

(名取市では、みなし仮設住民に対して何か所かの拠点サロンを置き、支援員を配置している)

このサロンは、去年の確か24年12月17日に開設していただきました。閑上に住んでいても、初対面の人がほとんどです。サロンで何回かお話したりして、友達になったことが一番大きいです。同じ被災している者同士、心が通い合えるのだと思います。福島からの方も交え、和気あいあいという雰囲気です。バッグなどの物作りや、西本願寺さんなどの遠方からの元気づけの支援は、滅入っている心を明るくします。私は、ストレッチにできるだけ欠かさず参加しています。皆さんが集まると、笑い声が絶えません。本当にサロンに来てよかったと思います。ありがとうございます。

閑上の良いところ

これは、いっぱいあります。気軽に言葉をかけあって、話しやすいところです。事件とか事故もないし、安心して住んでいられるところです。私も嫁にきて、ここで一生を終えたらいいなと思っていました。食べ物も豊富だし、気候もいいし、地域の人もいい人ばかりです。みんな知っているから、安心感があります。いつも子どもとか孫に自慢していました。ここはいい地域だと。閑上は雪も少なく、冷房もいらず、食べ物も豊富で、新鮮な魚が獲れて生活はしやすかった。

大震災にあって、とにかくこれは、天災だから仕方ないと思ってます。日本の国に生まれて良かったと思います。国を挙げての復興や支援、全国からの多数の方々からの支援、応援に深く感謝申し上げます。これからの人生を前向きに生きたいと思います。

地震の時

当日地震の時は、私と妻と一緒に仕事をしてたんですよ。家にじいちゃんと、ばあちゃんがいまして、「様子を見て来てくれ」って、妻をまず閑上に行かせたんです。そこに上の息子が現場から戻ってきまして、息子にも「今、かあちゃん行ったから、閑上に行ってちょっとじいちゃんと、ばあちゃんの様子見て来て」ってことで、行かせたんです。私は、仕事場の片付けをしないといけないと思って、残ってたんです。その後、20分・30分経っても連絡が取れないし、「閑上どうなってるんだ」と気を揉んで、私も車で閑上に向かったんです。

閑上に行ったら、案の定家の中がごちゃごちゃになってまして、家に入れなくて、じいちゃんと、ばあちゃんと妻と上の息子、中学生の下の息子と、あと近所のおじちゃんと、おばちゃんが家の前にいたんですよ。じいちゃんと、ばあちゃんが寒そうにしてたんで、息子たちに「じいちゃんと、ばあちゃんをまず避難所に置いて来て、暖かいところに降ろして来い」ってことで行かせたんですよ。私と妻は、家の中を被害状況確認っていう形で見ってたんですね。そしたら何分も経たないうちに、消防が「津波来るから、早く逃げなさい。逃げなさい」って大声で騒いでいたんで、「うちらも避難所に行くか」って、玄関に出たら、もう津波が見えたんですね。まず足、くるぶしぐらいまでの波が見えまして、すぐに車に乗ろうと思ったら腰ぐらいまでの波が見えたんで、「あっこれはだめだ」と思って、すぐ玄関を閉めて2階に上がったんです、2人で。

家ごと流された

2階に上がれば、もう大丈夫かなって思ったんですけど、2階に上がった途端に「ドーン」っていう波が来て、一瞬どういう風になったか分からないんですけども、家ごと流された状態だったんですね。窓開けて見てたら、とにかく水は来てるし、自分たちはどうなってるか分からないですすね。たまたま私の家は、屋根裏部屋があったんです。屋根裏の倉庫みたいなのが、2階でも水が入ってきそうになったんで、「ここじゃだめだ」ってことで、まず屋根裏に上がりまして、屋根裏の窓を開けて見たら、また流されてどこにいるか分からない。そうこうしてるうちに屋根裏にも水が入ってきそうになったんで、外に出て、がれきに上がりながら、屋根の上に登ったんですよ。周りを見渡して、その時にはもう波もいっくらか緩やかになりまして、なんとか助かったかなって気持ちにはなったんですよ。それでその時は、もうどこまで行ったのか、周りも水だらけで分からないですし、家もまだ揺れてますし、余震もありましたし、とにかくおっかないからということで、屋根の上に座ってたわけです。

そうこうしてるうちに雪が降ってきまして、屋根の上も凍ってきたんです。寒かったですねとにかく。県道10号線があるんですけど、ファミリーマートがあって、小学校があって、その間まで流されたんですね。2キロぐらい流された感じなんですかね。家に上がる時に靴脱いだんですよ。だから家に入る時に靴下のままで、屋根の上に上がる時に靴下が濡れたんですよ。屋根の上に上がって安心したんでしょうね。もう足が冷たいって靴下を脱いで投げってしまったんですよ。その時には、周りも見えなし流れも緩やかだったんで、後は水が引け

ばもう逃げられると思ったんです。結局水が引かなくて、裸足のまま屋根の上にいる状態だったんです。次の日は足が倍ぐらいに腫れましたね。元に戻るのに1年かかりました。もう感覚がなくて、歩くのもひどかったです。

夜もヘリは飛んでました。でも、救助するっていうようなヘリではなかったですよ。はるか遠く上の方を、ずいぶんひっきりなしに飛んでました。サーチライトとかも当ててました。ずいぶん手も振ったんですけどね。手を振ったり、携帯の電気付けて振ったりしたんですけど、結局誰も気付いてくれませんでしたね。

翌日救助された

救助されたのが、次の日の夕方4時ぐらいです。自衛隊のボートで救助されました。25時間ぐらいいましたね。屋根の上に体育座りして、このまんまですよ。動けないんです。1回お互いに寄ろうと思ったんですけど、滑って落ちそうになったんです。もうそれからは、動けなくてね。妻と2人でくっついてれば暖かいんでしょうけど、2人は3メートルぐらい離れてるんです。そこから動けなくなりました。

次の日の朝7時・8時頃になったら、いくらか水が引いて、県道10号線が見えてきたんです。7時頃には歩いてる人がいたんです。家の様子を見に行くとか、あとは中学校や小学校に避難した人たちが帰って行くとか、そういう人が私たちに声をかけてくれたんです。消防呼んでくれるからとか、自衛隊に話してやるからとか、みんな言ったんですけど、なかなか来なくて。最初に朝、私たちに声をかけて閑上の様子を見て帰ってきた方が、「まだいたのか」ということで、近くの自衛隊の仮の基地になってた所に行ってくれて、それで自衛隊と役所の人を連れてきてくれて、やっと救助してもらったんです。

その後、自衛隊のジープが迎えに来てくれたんです。当初、足が感覚無し、こんな腫れてたし、俺もちょっと心配だったので、「とにかく、病院かなんか診てもらえるところに連れて行ってくださいませか」と自衛隊の人に言ったんです。けどその時、やっぱり情報が錯綜しててね、病院がダメ、あとそういう医療関係のところも分からなかった。掴めないんです。だからいろいろすったもんだしてたんす。なんか無線やいろんな人に聞きに行ったりして、とにかく横になれる避難所、どこでもいいから連れて行ってっていうことで、その時は文化会館がいっぱいだって言われて、増田小学校に連れて行ってもらいました。とにかく、着いてすぐ寝ましたね。

感動の対面

家族も、3月12日に閑上から連れてこられて、文化会館に当初連れてこられたけれども、親父たちの行方が分からないっていうことで、市役所に行けば何か情報を得られるかっていうことで行ったんですけど、そしたら私の同級生なんかいっぱいいたらしいんです。私の息子だって分かって呼んでね。「昨日の夜、屋根の上にいるってことで連絡取れたけども、それ以来取れてないけど大丈夫だ。お前の親父ならなんとか生きてる」と言われて、ずいぶん力になったって後から言っていましたね。私たちは、ほんとにラッキーだったんです。

ボランティアのこと

結構ボランティアとかも、来ましたね。やっぱり力を付けてもらいましたね。今までボランティアっていうものに対して、関心ってあまりなかったですけど、ボランティアっていうのは、ほんとにすごいことだと思いますね。まあ1回きりで来た人は、いっぱいいますよ、それでもいいんです。1回だけでも「みんな頑張ってくれ」って来てくれたのは、ほんと嬉しいことなんです。2年数か月経ってみると、長く来てもらえる人っていうのは少なくなってますし、貴重な人たちですよ。みんな良くしてもらって、ほんとにもう家族みたいな形になってますからね。顔見れば誰々さんって分かるし、「何だ今日調子悪いんじゃないの」っていうのも分かってくるようになりましたしね。だからね、それはうんとありがたいです。

ボランティアの人って、ほんとにやってあげたい、あげたいっていうんじゃないくて、ほんとに力になりたくて来てる人たちなんですよ。

神戸の人たちも同じことで悩んできた

私、平成25年4月に神戸に行ってきたんですよ。復興してきた地域の自治会の人たちの話を聞いてきて、同じことなんですよね、あの人たちも。いま私たちが悩んでることも、あの人たちは悩んできたわけですよ。聞くと、やっぱり1年・2年経つと、違うボランティアの人たちがいっぱい来て、やっぱり「はっ」と思うボランティアの方がいて、「あんたたち、何しに来たの」と聞いたことがあるんだって。「いや、ボランティアに来たんですよ」と、なんかこう大きな顔して言ってたらしいのね、その人たちが。だから、「あなたね、ボランティアっていうのは、そんな大きな顔してボランティアって言うんじゃないよ」「ボランティアは、誰も知らないうちに来て、誰も知らないうちに物事をやって、誰も知らないうちに帰っていくのがボランティアなんだ」「こんな大きな顔してね、私ボランティアに来てます。なんて言う奴誰もいないよ」って言ったら、さっと帰って行ったんだって。そう自治会長さんが言ったから、まさにそうだなと。今、俺たちが思ってることがそうなんだなって思いました。

今後のことは

戻りたいっていうよりも、やっぱり閑上の人たちと暮らしたいんですよ。場所はどこでもいいの。今まで閑上で暮らした人たちと、暮らしたいっていう思いなんですよ。

やっぱり一番いいところは、つながりですかね。一番いいと私が思うのは、家の親父82歳で、閑上にいる時は自転車ね、うろうろ歩いたって何も心配ないですよ。どこに行ったって、どこの人か分かるし、自転車でひっくり返って道路で倒れてたといったって、必ず誰か連絡よこしますよ。分かんない人いないから、ほっとくっていう人もいないんですよ。だから私たち家にいないで、外で仕事しても全然心配ないですよ。だけど、美田園なり愛島なりに行って家を建てた時に、じいちゃん、ばあちゃんが心配で、家に2人で置かれないよね。

年寄りだってねえ、自転車でちょっと行けば、誰々さんの家でお茶飲みできる。それがほんとに閑上のいいところだったのかなって。子どもだってね、あの子どもはどこの子どもっていうのがすぐ分かったし、あそこの孫はどこの孫って言えばすぐ分かったし、閑上だけじゃないでしょうけども、それが強かったですね、閑上は。それを残したいですね。

地震の時

年齢は66歳です。震災前に住んでいた場所は閑上2丁目、家のすぐ前を貞山運河が流れていました。

地震の発生時は散歩中で、自宅から30分ほど離れた仙台東部道路の真下にいました。大きな地鳴りがして、それから揺れ始めました。ものすごい揺れでとっさに田んぼのあぜ道側に逃げて、蛙のように四つん這いになっていました。やっと揺れが収まり、とにかく急いで家に戻る途中、仙台市の上空あたりのヘリコプターから津波警報の情報が聞こえてきました。町頭公園まで来ると、たくさんの人が集まっており、そこで知り合いの人からラジオで6mの津波警報が出ていると聞かされ、「早く避難を」と思いました。

そこから避難所に指定された閑上中学校まで、まわりの人たちと一緒に急ぎました。閑上中学校の近くの親戚宅に立ち寄り、避難の呼びかけをしてから、私は中学校には行かず、自宅に向かって走りました。自宅にいるはずの主人は普段から「閑上には津波は来ない」と言っていたので、避難はしていないと思ったからです。

我が家の近くに来て、ブロック塀の外から声をかけると、主人は庭に出ており、津波の情報を伝えても反応はいまひとつでした。時間がないと思い、車で閑上中学校へ避難しようと、主人にエンジンをかけてくるように頼み、私は非常持ち出しリュックや携帯等を取りに家の中に戻りました。主人はカーナビで10mの大津波警報を伝えたのを見て、瞬時に避難のスイッチが入ったそうです。急ぎ身支度をして、隣や前の人に声がけをし、1人を同乗させ、更に足の不自由な1人暮らしのお年寄り宅へ立ち寄り、4人で中学校へ行きました。

途中出会った人たちにも、車を止めて避難の呼びかけをしました。主人は足の不自由な方を連れて中学校の3階に上った時に、私は車を校庭に止め、2階に着いた時に、津波が町をおそいました。目の前に閑上の町が一瞬にしてのみこまれる様子が見えて、余りの出来事に声も出ませんでした。まもなく雪が降ってきて、中学校は寒く、夜になっても強い余震が続き、更にあちこちで火事が起きており、恐怖の中で一夜を過ごしました。

翌日は

朝になり、たくさんの人が家族や親類を探しに、ずぶ濡れになりながら来ました。なかなか水が引かず、やっと午後2時過ぎに中学校を出て、徒歩で30分程度移動して、迎えのバスで閑上を離れました。その後、館腰小学校の体育館に着いて、おにぎりやパンが配布されました。それまでは飲まず食わずでした。

アパートを借りる

体育館内は寒かったので、主人と私は体育館を出て、歩いて1時間位の親戚の家に向かい、2週間お世話になり、その後アパートを借りました。すべて失ってしまったので、義兄から車を借りたり、また遠くの親戚、友人、知人の大勢の方から食料品、日用品、衣類などのプレ

ゼントが届けられ、本当に感謝に涙する毎日でした。

私は地区の民生委員をしていました。親しく関わってきた住民の方が100人余り震災で犠牲になり本当に悲しく、くやしい思いでいっぱいです。町内会では毎年防災訓練など災害への準備は怠らなかつたのですが、津波に対しての備えは想定外でした。毎日のように住民の方たちとのお別れがあり、それは6月まで続きました。

現在は

現在は仮設住宅を定期的に訪問し、話を聞いたり、相談に乗ったりしながら、みなさんと寄り添っていければと考えています。また、全国の民生委員さんが被災地の視察に来てくださった時は、他の委員さんたちと一緒に、閑上の現状や震災当時の自分たちの思いや行動、そして現在に至るまでの活動などをお話しています。すべての物を失い、親しかった人たちとの突然の別れから、少しずつではありますが前を向いて歩いていかなければという気持ちになっています。

閑上の良いところ

閑上に暮らして40年が過ぎますが、始めの頃は海辺の元気な人たちに圧倒されてなじめない時期もありましたが、今はすっかりなりきっています。気候も暖かく、魚も野菜も新鮮でおいしかったです。友達も知り合いもたくさんできて、楽しかった日々が一瞬にして失われてしまったことが、いまだに信じられません。

今後は

現在は、増田地区のアパートで生活していますが、いずれささやかながら我が家を持ちたいと主人と話し合っています。閑上に帰るつもりでいましたが、町の復興がなかなか進んでいない状況なので、自分たちの年齢を考え、別の場所も今は視野に入れています。生かしてもらった今を大事にし、自分に出来ることを頑張っていきたいです。多くの人からの励ましと支援に感謝し、小さな我が家の完成を、みんなに報告できる日が早く来ることを楽しみに、主人と共々健康に注意しています。

地震の時

地震の時は、ちょうど仕事が休みだったので家にいました。揺れたね、かなりね。そして長く揺れたでしょ。まず行動としては、落ち着いてました。女房があたふたしてる時に、「まずは落ち着け」と。外に逃げようとしてたから、「逃げるな、中にいろ」と。ちょうど孫が前の日から泊ってたんで、孫を抱っこしながらアイスを食べてました。そのまま地震が収まるのを待ってました。その時、まだテレビが映ってたんです。それでまず地震のニュースを見て、「女川で10cmの潮位を感じました」という言葉を聞いて、それで「あぁ、なんだ大したことない」って思いました。

そこから外に出て家の物がどうなってるか確認のためぐるっと回ったら全然問題がなかったんで、それで一応車も貞山堀沿いに移動しておいて、家に戻ってまず何かあったら困るなっていうことで、家の中のガスや電気、こういったものの全部の元栓切ったり、片付けをしたり。大体30分ぐらいやったのかな、それから貞山堀を見たんですよ。そしたら、全然水がない。「じゃあお母さん、一応避難しようや」っていうことで、閑上中学校に車で避難しました。その時、地震から30分後でも全然車は混んでなかったです。

避難してからは、ずっと校庭にいたんです。海を見ると、真っ黒くなってきたんで、「あぁ、あれが津波なんだろうな」と思って、それに対してはもう対応する余裕はあったんですよ。ところがまさかこっちの、川の方（北側）から、真横から津波が来ると思わなかったんで、私は中学校の校庭の一番東の端、野外音楽堂っていうのがあるんですけど、その脇にいて、そのまま津波に流されました。中学校の一番西端まで流されました。

運が良かったんですよ、田んぼの方に行ったら多分助からなかったでしょうね。校庭の前を流れたから。ちょうど中学校のプールがあって、プールがちょっと高くなってるのでそこで波がぶつかって波の勢いがそこで弱くなって、それで浮き上がることが出来たんです。それで助かりました。その時は、私と娘が同じ所に流されました。

がれきは普通は来るんですけども、ちょうど中学校と、生協（スーパー）前の道路を挟んで田んぼなんです。だから最初がれきに来る前に水が来て、まだがれき来ないから、私も無傷で、本当にかすり傷ひとつなく、浮き上がることが出来ました。大変だったんですけども。まず自分ではこの水は飲んじゃいけないなって思ったから、まずは口は絶対開かず、目は開けたけどね、目を開けたら真っ黒だったんで。その後たまたま浮き上がった場所に、流れてきた屋根があったんです。それにすがって、女房よりもまず一緒に流された娘が心配で、そしたらすぐそばに浮き上がってきたんですすぐ引き上げて、そしたら、娘の足が、血だらけなんで、「なんだ」って言ったら、どうしてけがをしたか本人はもう全然分からないんですよ。

風景は、私は見てないんです。ただ私が怖かったのは、流れて来て、すがりついた屋根、それにすがっていた時、目の前を人が流れて行くんですよね。私を見てるんです。でも私はどうすることもできなかった。私もほんとに5~6mずれたら、そのまま速い流れの方に行っちゃったでしょう。

その後、私はある程度水かさを確認して「ああこのぐらいだったら中学校に移動できる」と思い、中学校に移動しまして、女房と孫の安否を確認して、娘の所に戻りました。

その後、娘と中学校に行って、娘のけがが大げなだったので「12日の朝一番に運びます」という連絡をもらいまして、ところが待てども待てども全然来ない、結局一番最後、暗くなった頃にやっと車が来てくれまして、それで第一中学校に避難しました。娘は市の職員が車で待機してて、そこから今度病院まで連れて行ってくれました。

避難所へ

第一中学校へは私、女房、娘、孫と4人で13日までいました。そのあとは、娘が上余田のアパートに入っていたので、そこに移動しまして、そこで約1か月間ぐらいおりました。

娘が怪我をしていて入院してるし、それから孫がいるし、まず女房が面倒見なくちゃいけないっていうことで、別のアパートを探して、そこを借りました。

田高交差点が近くて、特に震災でダンプが多く通るようになりました。常に地震が来てるような感じで、それからうるさい。特に、私は前の会社の時は夜勤やってたから、日中寝られないんですよ。

仮設住宅へ

2012年の11月に植松入生仮設住宅に引っ越してきました。

仮設には、いろいろな所から来ているが、ここに来てから新しい知り合いが結構出来ました。私はここを希望したんですよ、ここには7丁目の人がいるんで、それで希望しました。

今後のこと

震災に遭った時から「絶対私は閑上に戻るぞ」と思っていました。ただ女房がね、「もう絶対いやだ」って賛成はもらえなかったんです。じゃあ上から順序に、「この場所はどうか、この場所はどうか」っていうことで、いろいろ探したんだけど、そしたら「ここも嫌だ、ここも嫌だ」となって「じゃあお前はどこに行きたいんだ」って言ったら、「やっぱり最後は閑上に戻りたい」って。女房がもともと閑上なんで、私は、最初から戻るつもりでいたから、私の元の土地、駐車場、カーポートはなくなったけど、駐車場の石とかそういったものはまだ綺麗に敷いてあるんでそのまま残してくれて、そのままにしてたんです。そしたら災害危険区域になってしまっただけ。もうそこに家を建てられないんだな。私たちは一応集団移転扱いになりますので、閑上中学校あたりなんですけどね。

閑上の良いところ

私は釣りが好きなんですよ、海釣りがね。投げ竿で思いっきり遠投する、あれ最高に爽快ですよ。砂浜だとね、100m以上投げるからね、それがもう最高のストレス解消ですよ。以前は時間が空いてる時はいつでも行けたんで。でもやっぱりこの震災で行方不明者が四十何名もいるという話を聞いたらね、釣りをする気は起きないね。そして今は閑上の海岸入れないでしょ。

地震の時

家で洋裁の内職をしていました。また、ハーモニカが大好きで教室に通っていました。津波がなければまだやっていたんだけどね。みんな家ごと流されてしまいました。実家は仙台市で、そこから閑上に嫁に来てもう52年だね。閑上は住みよい所でしたね。

揺れはすごかったですね。その時テレビ見てたんだけど、わらわら（慌てて）外に出て、家の前が草むらになってたから、そこに座り込んでしまいました。余震も多かったからしばらくそこにいたんです。そのうち向かいの方が「今おっきな津波が来るから避難した方がいいよ」と言われて初めて家の中に入り、ジャンパー着てリュックを背負って、歩いて200m位の閑上中学校に行ったんです。

閑上中学校では

津波は見ました。中学校の3階に上ったんだけど、その時はもう各教室ともいっぱいになってました。15分位経ってから、津波が来ました。家や車やがれきなどが流されてきて。水もどす黒い色で、本当に映画でも見てるみたいだったね。この先どうなんのかと思ったね。中学校には何も食べ物なくて。次の日、12日の午後2時頃、自衛隊が仙台東部道路あたりまで人が通れるぐらいまでがれきを片付けてくれて、そこまで歩きました。ずい分遠く感じました。大型バスが4～5台来ていたんですけれども、その時間だとがれきがまだまだあって、そこまでしか来れなかったようです。それでバスに乗せられましたがどこに連れて行かれるのか分かりませんでした。結局、館腰小学校の体育館に運ばれました。

避難所へ

私は、7年ぐらい前に主人が亡くなってから1人暮らしだったんですね。避難所では不安だったけど、みんな近所の人たちだったので安心しました。着の身着のままでした。お風呂は10日に1回くらい入りました。極楽湯（銭湯）とか秋保温泉に連れて行かれました。妹が迎えに来てくれてお風呂に入ったりもしました。着替えがないので出かけた時に買ってきたり、みんなにもらったりしました。食べ物は、わりと不自由はしませんでした。自衛隊の方々が炊き出ししてくれたので、とてもありがたかったです。12日の夜、おにぎりを食べた時は本当においしかったです。また、水も電気もつかないのが大変でした。

家を持っていかれるとは思わなかった

家は流されたんです。勝手（台所）の方だけちょっと残ってました。この辺（1丁目）はみな残ったんだけど、家のまわりは道路や田んぼだったので、そっちからもこっちからも津波が来てごちゃごちゃにされました。地震の時は、古い家だったんでいつ倒れるかと思って、外で見ていたんだけど倒れませんでした。だから津波さえ来なければ住めたのに、みんな持っていかれてしまって…家の2階が道路にたまったがれきの上にポコンと乗ってました。1

階が流されて2階がね。よもや家まで流されるとは思わなかった。

婦人会の活動

仮設住宅には平成23年5月3日に入居しました。ここの仮設には1丁目、2丁目の人たちが住んでいて、婦人会の人たちもみなばらばらで何をするにも大変です。閑上婦人会というのは各地区に分かれていて、その中に各支部長がいるんです。私もその中の1人で、ある婦人会の支部長を務めていました。震災の年は行事は何もできなかったのですが、平成24年25年と市婦連大会の時に、閑上保存会の閑上大漁踊りをしました。増田西公民館で踊ったり、名取が丘公民館で踊ったり。閑上にいた時は、公民館祭りとか町民大会とか行事がいろいろあったから、その度に婦人会でバザーをするため弁当を作ったりなどの活動をしていました。

仮設住宅では

仮設住宅に入った時は、荷物はあまりなかったので、1部屋でもいいと思っていましたが、月日が経つにつれて荷物も増えて、4畳半一間ではとても狭くなりました。もう2年5か月も経ちますからね。週1回ボランティアに買い物に連れて行ってもらえるので助かっています。集会所でお茶会があるので、行って楽しんでいます。

閑上の良いところ

バスの停留所が近い、病院、生協（スーパー）、郵便局、店も近いし、道路も平らなので自転車でみな用足し出来ました。浜風も、夏は涼しくてほんとうに住みよい町でした。

今後のこと

自分の帰る所は閑上だね。1日も早く復興してもらいたい。それまで健康に注意して過ごしたいと思っています。

地震の時

私は1人でお茶を飲み、テレビを見ていました。地震に驚き、家を飛び出して庭先をウロウロしていた所に、町内の副会長さんが来て10分ほど地震のことを立ち話していました。その後、一応老人世帯の安否確認のため、2人で軽トラックに乗っている時にラジオをつけたら、津波が来ていることを知り、急いで15世帯ほど回りました。途中、何人かの人にどこに避難したらいいのかと聞かれましたので、「自宅の2階か谷地の高台に逃げた方がいい」と言いました。そうしているうちに貞山堀の方から黒い砂煙が見え、橋の上で「津波だ！」と泣き叫びながら公民館に向けて走って行きました。途中副会長は車から降り、公民館の方へ行きました。

津波に流される

副会長を降ろし、公民館の前の道路を走っていると、自宅に向けて波が進んで行くのが見えました。私は自宅にいる妻のことが気になって、そのまま無我夢中で軽トラックを走らせたのですが、橋が地震で壊れて交通止めになっていたため、車から降りました。腰まで水に浸かり、目の前の小屋の上に5、6人の人が見えたので助けを求めましたが、その後に津波がまた来て流されてしまいました。無我夢中で近くのがれきにしがみつき、手を離さないよう必死でした。

頑張れという声に励まされた

仙台東部道路の上に電気を持っている人が見えたけど、声を出す力もなかったです。がれきの上に上がろうとしても揺れて大変でした。足を使って少しずつ上に上っていったら車が浮いているのが見え、そこに上がろうとしてもツルツル滑って上がれませんでした。左右を見渡すと大きい船が見えて、「その上に行けば助かるんじゃないか」と思い、必死に四つん這いになって10mくらい歩きました。私に気付いた人が電気をつけて「頑張れ」と声をかけてくれた時、「やっと助かった」と思い安心しました。その人が消防に連絡してくれてクレーン車でボートを下ろして助けてもらいました。その後バスに乗り、仙台市立折立小学校で濡れた服のままストーブで一晩あたりりましたが、それでも寒くて、柔道着を1枚貸してもらい朝が来ました。

次の日、ボランティアの人たちによる安否確認の時に自分の住所と名前を言ったら、偶然にも仙台市立愛子小学校に妻がいることを知らされました。それで今度は愛子小学校に移って4日間お世話になりました。

避難所に

その後は、名取の文化会館にずっとお世話になりました。妻は避難所生活に慣れなくて体調を崩してしまい、「頭痛い、頭痛い」と毎日毎日言っていたので、友達の貸家を借りました。

私自身は、文化会館に行ったり来たりしながら、お互いの情報交換をしていました。

雇用促進住宅へ

今は妻と2人で住んでいて、息子夫婦は別の棟に住んでいます。上を見ればきりが無いけど、自分は車の運転が出来るし、また健康なので仮設の友達の家に行っています。いろいろな話をする中で、農家をやっていた人は、「野菜を作りたくても作る場所がない」と言うけど、「健康でこうして生きているだけで幸せだ」と口々に言っています。

私も今は1つ農機が残ったので、修理をして自分の土地に毎日通って畑を耕して、トマト、キュウリなどを作っています。みんなに「おいしい」と言ってもらえるだけで幸せです。

小塚原の良いところ

津波の前は、近所の人と家族のような付き合いが出来て、毎日、朝昼とお茶飲みに行ったり来たりして、楽しく暮らしていました。いろいろな行事への参加も協力的な人が多かったですね。

地震の時

私は、亘理の荒浜の保育園に孫を迎えに行って、もう少しで保育園に着くってところで地震にあって、地震が落ちつくのを確認して、それから保育園に慌てて行ったら、子どもたちがみんな園庭に並んでいました。そこからうちの孫を連れて、すぐ我が家へ向かいましたが、道路はアスファルトが剥がれて、ごちゃごちゃでしたが、その時はもう夢中で帰ってきました。

家に着いて見てみると、家の周りの塀は落ちてたんですけど家はあったんですね。中に入ってみたら、食器棚とかいろんな物がひっくりかえっていたので、「ああ、今日これ片付けて寝なきゃな」と思ってました。その時、地元の消防団の人だと思うんですけど、「津波が来るんだよ」って言って回っていたそうなのですが、私には聞こえませんでした。そのあと弟が町内会の役員をしてたんで、私の家に来て「何してるの早く逃げろ」って言われて、それまで津波が来ると思わなかったものですから、慌てて仙台空港に孫と夫と3人で行きました。仙台空港ターミナルビルが避難場所と決まっていたし、前の年のチリ地震の時に1回避難したものですから、頭にはもう「津波の時は、仙台空港だ」って、それは分かってたんです。

避難所へ

仙台空港ターミナルビルには、3日ほどいました。1日目は国際線の待合室に入ったんで、すごく寒かったんですよ。1世帯に毛布1枚という割り振りだったのと、食事は「萩の月」(お菓子)とジュースと笹かまぼこですね、それが3食です。それをもらえたんですね。トイレは水が流れなくて、みんな詰まってだめだったんです。だから最後には大の方はビニールの袋に新聞紙を敷いて、自分のお尻にあててするっていうやり方でしたね。だからどの部屋もみんなトイレ臭かったです。

避難したのは、夫と弟と保育園の孫です。3日目に第二中学校に移されました。第二中学校に来て初めて「おかず」が出ました。スパゲッティとお煮つけなどがいっぱい並んで、「好きなもの3品まで取りなさい」って言われて、それが初めてのまともな食事でした。長男が増田に家を建てて住んでいまして、避難所に迎えにきてくれたので、そのまま長男の家に孫を連れて行きました。

仮設住宅へ

美田園第二仮設住宅に来たのは、5月末で夫と2人です。こういう狭い家とか長屋とかが入ったことなかったものですから、すごく最初は緊張して「音出すなよ」とか、もう水出す音も掃除機の音もみんな聞こえるじゃないですか、だから最初はそれは神経使いましたね。入って1週間ぐらいは、もう頭を何かで圧迫されてるような感じがして、とつてもつらくて。それで、娘達が借りた家に1回泊まりに行ったんですね。そしたらなんだか自分の頭から「ぼー」って上に抜けるような感じがしましてね。それで娘の家に泊まって、また仮設に来てっ

という風に、少しずつここに慣れていきましたね。

今後のこと

集団移転を待っています。一戸建ての災害公営住宅を頼んでいます。寝て目をつぶると、前の家の様子が、こう「バーッ」と見えてきたり、あとはやたら心臓が苦しくなったり、胸が締め付けられるようになり、いろいろ体に異変が出てきたものですから。

前の家は、何回か見に行ったりはしていますが、土台だけで何もありません。近くで暮らしていた姉がまだ見つからないので、北釜に行くと大きな声で呼び掛けています。返事はもちろんありませんけどね。

◆ 表紙写真

閑上海浜プールの被害 撮影日：平成23年9月4日 提供：西口 なおみ	避難所(第一中学校) 撮影日：平成23年5月20日 撮影：名取市
箱塚桜仮設住宅団地の夏まつり 撮影日：平成23年8月19日 撮影：名取市	3.11 ゆりあげの集い 撮影日：平成24年3月11日 提供：一般社団法人 名取市観光物産協会

名取市における東日本大震災の概要

平成27年3月

編集 名取市 総務部 震災記録室

発行 名取市

〒981-1292 宮城県名取市増田字柳田80

電話：022-384-2111

非売品